教科名	国語	単位数	4	使用教材	教科書：東京書籍 新編言語文化 問題集：東京書籍 新編言語文化 学習課題ノート など			
科目名	言語文化	対象年次	1年	授業の進め方	教科書を中心にして学習し、確認プリントや問題集でまとめを行いながら進める。 言語活動などにおいてペア学習やグループ学習等を適宜取り入れ、学び合う雰囲気の中で学習を行う。			
学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語的確に理解し効果的に表現する資質・能力を、下記の評価の観点のとおり育成することを目指す。			学習方法 (留意点)	①予習：教科書に目を通し、記述内容を把握する。疑問や不明な点を整理する。 ②授業：授業時間が最も重要。授業中に完全に理解するつもりで、質問するなど、集中して授業に臨む。 ③復習：教科書やノートを見直し、問題集を解く。 ④考査前は、問題集や確認プリントを繰り返し解く。課題には必ず取り組む。			
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。		・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。			
月	単元・学習項目		学習内容・ねらい		評価の観点 知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	評価の方法		
4	古文編 1 古文入門 古文の世界へ ・古文に親しむ ・児のそら寝 『宇治拾遺物語』 ◎古文学習のしるべ 歴史的仮名遣い、品詞		□ノートの取り方、辞書の使い方がわかる。 □歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直せる。古文を正しく音読できる。 □現代語訳の方法を理解する。 □僧たちが大笑いした理由を考える。古文を正しく音読できる。 □僧たちはいつの時分で児のそら寝に気づいたかを考え、積極的に意見を述べようとする。		○ ○	○ ○	○	小テスト 授業内発表 授業ノート 定期考査 課題ノート
5	現代文編 1 随筆 生きる喜び ・さくらさくらさくら 俵万智		□読みを確認し、段落を意識して、すらすらと音読することができる。 □日本独特の桜に対する感性について理解を深め、学習課題に沿って本文や引用歌の考察を踏まえながら筆者の桜への思いを整理しようとしている。		○	○	○	小テスト 授業内発表 授業ノート 定期考査 課題ノート
	【中間考査】 古文編 1 古文入門 古文の世界へ ・絵仏師良秀 『宇治拾遺物語』 ◎古文学習のしるべ 活用形、用言		□古典学習の予習の大切さを知り、進んで予習を行い授業に臨もうとする。 □火事の際の良秀の行動と心情を理解し、良秀と世間の人とのものの考え方や感じ方が違うことに気づくことができる。 □動詞・形容詞・形容動詞の活用について知る。		○	○	○	授業内発表 授業ノート 定期考査 課題ノート
6	漢文編 1 漢文入門 漢文に親しむ ・訓読 ・格言 ・故事成語 借虎威		□漢文の文構造について理解できる。 □返り点や返読文字、置き字がわかる。 □返り点に従って正しく書き下すことができる。 □進んで自分の考えた書き下し文を発表しようとする。 □どのようなことを伝えようとした故事成語なのか、寓意を知る。		○ ○ ○	○	○	小テスト 授業内発表 授業ノート 定期考査 課題ノート
	現代文編 2 小説1 触れ合う心 ・とんかつ 三浦哲郎		□小説の基本的な設定(時・所・登場人物)を押さえる。 □女主人・母親・息子それぞれの心情を読み取る。 □タイトル「とんかつ」の意味を考え、進んで発表する。		○	○	○	授業内発表 授業ノート 定期考査 課題ノート
7	古文編 2 随筆 日々の思い ・亀山殿の御池に 『徒然草』 ・雪のおもしろう降りたりし朝 『徒然草』 ・うつしきもの 『枕草子』 ◎古文学習のしるべ 主な助動詞		□単語調べ、現代語訳など、予習ができています。 □助動詞の種類と働きについて知る。 □結びの一文から、筆者の言おうとしたことを読み取る。 □作者と亡き人との関係について、自分なりの答えを考える。 □作者はどのようなものを「うつし」と感じているかについての自分の考えを進んで発表し、友だちの意見と比べてよりよい意見にしようとする。		○	○ ○	○	小テスト 授業内発表 授業ノート 課題ノート
	振り返り 反省				観点別評価の割合	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

教科名	国語	単位数	4	使用教材	教科書：東京書籍 新編言語文化 問題集：東京書籍 新編言語文化 学習課題ノート など				
科目名	言語文化	対象年次	1年	授業の進め方	教科書を中心にして学習し、確認プリントや問題集でまとめを行いながら進める。 言語活動などにおいてペア学習やグループ学習等を適宜取り入れ、学び合う雰囲気の中で学習を行う。				
学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を、下記の評価の観点のとおり育成することを目指す。			学習方法 (留意点)	①予習：教科書に目を通し、記述内容を把握する。疑問や不明な点を整理する。 ②授業：授業時間が最も重要。授業中に完全に理解するつもりで、質問するなど、集中して授業に臨む。 ③復習：教科書やノートを見直し、問題集を解く。 ④考査前は、問題集や確認プリントを繰り返し解く。課題には必ず取り組む。				
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				
	・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。		・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。				
月	単元・学習項目		学習内容・ねらい		評価の観点 知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	評価の方法			
8	漢文編 1 漢文入門 漢文に親しむ(続き) ・訓読の基本 再読文字(読むこと 漢文 2時間) ・故事成語 借虎威(読むこと 漢文 3時間)		□再読文字を正しく書き下すことができる。 □進んで自分の考えた書き下し文を発表しようとする。 □どのようなことを伝えようとした故事成語なのか、寓意を知る。		○	○	○	授業内発表 授業ノート・課題ノート 小テスト 定期考査	
9	現代文編 4 小説2 葛藤する心 ・羅生門 芥川龍之介(読むこと 近代以降 6時間)		□物語の概要をつかみ、主題を考える。 □下人の内面の変化を読み取る。 □小説としての表現上の工夫を理解する。 □進んで小説のその後を想像してみようとする。		○	○	○	授業内発表 授業ノート・課題ノート 小テスト 定期考査	
10	古文編 2 随筆 日々の思い ・雪のおもしろう降りたりし朝『徒然草』 【中間考査】		□用言の活用の知識があり、使いこなそうとしている。 □作者と亡き人との関係について考える。			○		小テスト 授業内発表 授業ノート 定期考査 課題ノート	
	うつくしきもの『枕草子』 ◎古文学習のしるべ 主な助動詞		□自ら、作者はどのようなものを「うつくし」と感じているかを考える。 □助動詞の種類と働きについて知る。		○		○		
11	漢文編 3 論語 論語の言葉 ・論語 学ぶということ ・論語 人間を見つめる ・論語 政治を考える ◎漢文の訓読の復習 【期末考査】		□返り点に従って正しく書き下すことができる。 □孔子の学問観について理解する。 □孔子の人間観について理解する。 □孔子の理想とする政治について理解する。 □書き下し文にしたり、訓点を付けたりができる。		○	○	○	小テスト 授業内発表 授業ノート 定期考査 課題ノート	
12	古文編 4 物語 古人の生き方 ・伊勢物語 芥川		□単語調べをして、現代語訳を試みる。 □現代語訳に必要な助動詞や助詞の知識を身に付ける。 □和歌の解釈を踏まえ、男の心情を読み取る。		○	○		授業内発表 授業ノート 定期考査 課題ノート	
振り返り 反省					観点別評価の割合		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
							%	%	%

教科名	国語	単位数	4	使用教材	教科書：東京書籍 新編言語文化 問題集：東京書籍 新編言語文化 学習課題ノート など		
科目名	言語文化	対象年次	1年	授業の進め方	教科書を中心にして学習し、確認プリントや問題集でまとめを行いながら進める。 言語活動などにおいてペア学習やグループ学習等を適宜取り入れ、学び合う雰囲気の中で学習を行う。		
学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を、下記の評価の観点のとおり育成することを旨とする。			学習方法 (留意点)	①予習：教科書に目を通し、記述内容を把握する。疑問や不明な点を整理する。 ②授業：授業時間が最も重要。授業中に完全に理解するつもりで、質問するなど、集中して授業に臨む。 ③復習：教科書やノートを見直し、問題集を解く。 ④査前は、問題集や確認プリントを繰り返し解く。課題には必ず取り組む。		
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。		・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。		
月	単元・学習項目	学習内容・ねらい			評価の観点	評価の方法	
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
1	現代文編 5 小説3 現実の向こう側 ・デューク 江國香織	○	○	○	授業内発表 授業ノート 定期考査 課題ノート		
	古文編 5 紀行 旅の心 ・奥の細道 平泉	○	○	○	授業内発表 授業ノート 定期考査 課題ノート		
2	漢文編 2 漢詩 漢詩を味わう ・絶句と律詩 ◎漢文の窓 漢詩の形式ときまり	○	○	○	授業内発表 授業ノート 定期考査 課題ノート		
	【期末考査】	○					
3	現代文編 3 詩歌 I was born 古文編 3 詩歌 万葉集 漢文編 2 漢詩 漢詩と日本文学			○	授業内発表 授業ノート 課題ノート		
振り返り 反省				観点別評価の割合	知識・技能 %	思考・判断・表現 %	主体的に学習に取り組む態度 %

教科名	国語	単位数	2	使用教材	教科書：東京書籍 新編現代の国語 問題集：東京書籍 新編現代の国語 学習課題ノート など			
科目名	現代の国語	対象年次	1年	授業の進め方	教科書を中心にして学習し、問題集でまとめを行いながら進める。 言語活動などにおいてペア学習やグループ学習等を適宜取り入れ、学び合う雰囲気の中で学習を行う。			
学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			学習方法 (留意点)	①予習：教科書に目を通し、記述内容を把握する。疑問や不明な点を整理する。 ②授業：考えを言語化することを意識し、活動に積極的に取り組む。 ③復習：授業プリントを見直し、問題集を解く。			
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。		論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
月	単元・学習項目		学習内容・ねらい		評価の観点 知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	評価の方法		
4	1 自己を見つめる 「こそめスープ」(読むこと 3時間)		□言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 □筆者の述べる「勘違い」と、「思い込みの世界」について読み取り、筆者の人間に対する考え方を理解している。 □進んで筆者の気持ちの変化について整理したり、話し合ったりしている。 □「そんな気持ち」の内容を捉え、「好きなことがあること」がなぜ大切なのかを理解し、筆者の主張を読み取ることができる。 □読解前後で自分自身の興味や関心についてのイメージを比較することができる。		○	○	○	授業態度(音読、発問) 授業内発表 定期考査
	「ルリボシカミキリの青」(読むこと 3時間)							
5	2 他者に出会う 「未来をつくる想像力」(読むこと 3時間)		□筆者の考える「社会」とはどのようなものか理解することができる。 □本文の内容を踏まえて、情報社会における自己の在り方について考えを深め、話し合おうとしている。		○		○	授業態度(音読、発問) グループワーク 定期考査
	【中間考査】 「水の東西」(読むこと 4時間)		□日本と西洋の具体例を挙げることで、対比を通して分かりやすく論じていることに気付く。 □文章の種類を踏まえて、叙述を基に的確に捉えて筆者の主張を読み取ることの重要性を理解することができる。		○	○		
6	5 社会とかがわる 「鍋洗いの日々」(読むこと 3時間)		□筆者の「思わく」や培った経験からの自負から、現実の厳しさを知った筆者の心情を理解することができる。 □筆者の必死の行動とは何かを理解し、それによって先輩の料理人たちがどのように変化したかを読み取ることができる。		○	○		授業態度(音読、発問) 定期考査
	「森で染める人」(読むこと 4時間)		□都会で暮らしていた筆者が覚えた違和感と、山での暮らしで得た実感を読み取ることができる。 □自然や社会の中で生きる意味を考えながら働く筆者の思いに触れ、働くということについて考えようとしている。		○		○	
7	言語活動 憧れの職業について調べ、整理してまとめよう(書くこと 5時間)		□憧れの職業について、実際に経験した人の話や関係する書物などから詳しい情報を集めることができる。 □「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、情報の分量や重要度などを考えて文章の構成や展開を工夫している。		○		○	授業内態度 授業内提出物
振り返り 反省	観点別評価の割合				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
					%	%	%	%

教科名	国語	単位数	2	使用教材	教科書：東京書籍 新編現代の国語 問題集：東京書籍 新編現代の国語 学習課題ノート など	
科目名	現代の国語	対象年次	1年	授業の進め方	教科書を中心にして学習し、問題集でまとめを行いながら進める。 言語活動などにおいてペア学習やグループ学習等を適宜取り入れ、学び合う雰囲気の中で学習を行う。	
学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			学習方法 (留意点)	①予習：教科書に目を通し、記述内容を把握する。疑問や不明な点を整理する。 ②授業：考えを言語化することを意識し、活動に積極的に取り組む。 ③復習：授業プリントを見直し、問題集を解く。	
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。		論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	
月	単元・学習項目		学習内容・ねらい		評価の観点 知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	評価の方法
8	4 視野を広げる 「スキマが育む都市の緑と生命のつながり」(読むこと 4時間)		□身近な植物を観察してきた成果を述べる文章を読み、提示された新しい視点について理解することができる。 □「都市部の緑の在り方」についての筆者の主張を読み取ることができる。		○ ○	授業態度(音読、発問) 小テスト 定期考査
9	「無彩色の色」(読むこと 3時間)		□色について論じた文章を、具体例の役割を押さえながら読み、筆者の価値観と主張をつかむことができる。 □筆者の主張を踏まえて、カラー写真と白黒写真を比較して気づいたことを話し合おうとしている。		○ ○ ○	授業態度(音読、発問) 小テスト グループワーク 定期考査
10	言語活動 集めた情報の内容を検討して意見文を書こう(書くこと 5時間)		□自分の決めたテーマに沿って、自分の経験を振り返ったり、人から話を聞いたりして、関連する情報を集めようとしている。 □集めた情報を参考にして、文章の構成を意識した意見文を書くことができる。		○ ○ ○	授業内提出物
	言語活動 分かりやすい説明をしよう(話すこと・聞くこと 5時間)		□「目的意識」「論理性」「相手意識」の三つの観点から「分かりやすい説明」のポイントを理解することができる。 □目的や相手に合った分かりやすい説明をしようとしている。		○ ○ ○	授業内発表
11	7 世界とつながる 「美しさの発見」(読むこと 2時間)		□少年龍之介を叱った先生が捉えている「美しさ」と少年龍之介が捉えている「美しさ」を読み取ることができる。 □「同じ一つの心の働き」について考え、「『美しさ』を知る」ために必要なことを話し合おうとしている。		○ ○ ○	授業態度(音読、発問) 小テスト グループワーク 定期考査
	「りんごのほっぺ」(読むこと 1時間)		□出来事の順序に着目しながら、戦時下の人々の状況と、作品に一貫する筆者の思いを読み取ることができる。 □戦争体験を語り継いでいくことの意義について話し合おうとしている。		○ ○ ○	授業態度(音読、発問) 小テスト グループワーク 定期考査
12	言語活動 異なる種類の文章を読み比べよう(読むこと 1時間)		□論理的な文章の種類を知り、複数の文章を比較する際の「読み比べのポイント」を理解することができる。		○ ○ ○	机間巡視
振り返り 反省					観点別評価の割合	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度
					%	% % %

教科名	国語	単位数	2	使用教材	教科書：東京書籍 新編現代の国語 問題集：東京書籍 新編現代の国語 学習課題ノート など		
科目名	現代の国語	対象年次	1年	授業の進め方	教科書を中心にして学習し、問題集でまとめを行いながら進める。 言語活動などにおいてペア学習やグループ学習等を適宜取り入れ、学び合う雰囲気の中で学習を行う。		
学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語的的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			学習方法 (留意点)	①予習：教科書に目を通し、記述内容を把握する。疑問や不明な点を整理する。 ②授業：考えを言語化することを意識し、活動に積極的に取り組む。 ③復習：授業プリントを見直し、問題集を解く。		
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。		論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
月	単元・学習項目	学習内容・ねらい			評価の観点	評価の方法	
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
1	8 未来に目を向ける 「不思議な拍手」	☐ 筆者の考えを分かりやすい言葉で言い換えることができる。 ☐ 「推論」と「推測」の仕組みを理解し、文章の真偽を見極めることができる。			○	○	
	「真の自立とは」	☐ 「真の自立」の内容を的確に捉えることができる。 ☐ 社会で求められる能力を自分の言葉で説明することができる。 ☐ 筆者の言う「自立」について話し合おうとしている。			○	○	○
2	言語活動 発想を広げる方法を使って話し合おう	☐ 発想を広げる方法について理解して用いることができる。 ☐ テーマに合わせて、意見の分類・整理をすることができる。 ☐ 最も強く伝えたいことが分かるスピーチを行うことができる。 ☐ 聞き手を意識したスピーチを行うことができる。 ☐ グループワークや発表に意欲的に取り組もうとしている。			○	○	○
	言語活動 分かりやすい説明をしよう	☐ 分かりやすい説明と分かりにくい説明の違いを理解し、実践できる。 ☐ 伝える相手を意識した説明ができる。 ☐ ロールプレイで互いに気づいたところを指摘しようとしている。 ☐ 自分の考えを工夫して伝えようとしている。			○	○	○
3							
振り返り 反省					観点別評価の割合		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
					%	%	%

教科名	地理歴史	単位数	2	使用教材	高等学校 歴史総合（第一学習社）、明解 歴史総合図説 シンフォニア 三訂版（帝国書院） 要点整理ゼミナール 歴史総合（浜島書店）			
科目名	歴史総合	対象年次	第1学年	授業の進め方	諸資料を用いて、個人・グループでの思考・判断・表現を伴う探究活動を定期的実施する。 定期的なポートフォリオ（単元の振り返り等）で学習内容を確認しながら進める。			
学習目標	・近現代の歴史に関わる事象の意義や特色を、現代社会とのつながり等に着目して多角的に考察したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ・現代の諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身につける。			学習方法（留意点）	①予習：教科書に目を通し、記述内容を把握する。疑問や不明な点を整理する。 ②授業：授業時間が最も重要。授業中に理解するつもりで臨む。 ③復習：教科書や授業プリントを見直し、問題集を解く。 ④考査前は、問題集を繰り返し解く。課題には必ず取り組む。			
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	現代の諸課題に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切に調べ、まとめる技能を身につけている。		近現代の歴史に関わる事象の意義や特色を多角的に考察したり、それらを基に効果的に説明、議論したりする力を身につけている。		近現代の歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究・解決しようとする態度を身につけている。			
月	単元・学習項目		学習内容・ねらい		評価の観点		評価の方法	
					知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
4	第1部 歴史の扉 ①歴史と私たち ②歴史の特質と資料 第2部 近現代の世界と日本 第1章 近代化と私たち		・私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に、それらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解する。 ・世界の様々な地域の人々の歴史的な営みの痕跡や記録である遺物、文書、画像などの資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解する。 ・複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読み取った情報の意味や意義、特色などを考察し、表現する。		○		○	授業プリント【知】【思】 定期考査【知】【思】 授業態度（出欠含む）【主】 ポートフォリオ【主】 課題の取り組み状況【主】
5	第1節 18世紀のアジアの繁栄 ①18世紀の東アジアの政治と国際秩序 ②18世紀の東アジアの経済と社会 第2節 産業革命と市民革命 ①国際商業の覇権争いと大西洋三角貿易 ②農業社会から工業社会へー産業革命 【 中間 考 査 】		・18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会を理解する。 ・18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開国などを基に、工業化と世界市場の形成を理解する。		○		○	授業プリント【知】【思】 定期考査【知】【思】 授業態度（出欠含む）【主】 ポートフォリオ【主】 課題の取り組み状況【主】
6	③アメリカ独立革命 ④フランス革命 ⑤イギリスに挑戦したナポレオン ⑥大西洋をこえて広がった革命 第3節 イギリスの繁栄と国民国家の拡大 ①イギリスの繁栄 ②後発国による「上からの近代化」 ③ロシアの近代化と南下政策 ④アメリカ合衆国の膨張 【 期 末 考 査 】		・18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解する。 ・国民国家の形成の背景や影響などに着目して、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。		○	○	○	授業プリント【知】【思】 定期考査【知】【思】 授業態度（出欠含む）【主】 ポートフォリオ【主】 課題の取り組み状況【主】
7	第4節 アジア諸国の変貌と日本の開国 ①オスマン帝国の衰退と西アジア ②南アジアと東南アジアの植民地化 ③東アジアの動揺 ④東アジアの情勢と改革 ⑤明治初期日本の外交と東アジアの国際秩序 ⑥日本の立憲国家への道のり		・ヨーロッパやアメリカの進出に対し、アジア諸国がどのように対応したのか、各国の対応の違いにも着目しながら理解する。 ・明治初期の日本の外交について理解を深め、特に東アジアの国際秩序の変化を多角的に捉えて考察し、表現する。		○	○	○	授業プリント【知】【思】 定期考査【知】【思】 授業態度（出欠含む）【主】 ポートフォリオ【主】 課題の取り組み状況【主】
振り返り 反省					観点別評価の割合			知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度
					40%	30%	30%	

教科名	地理歴史	単位数	2	使用教材	高等学校 歴史総合（第一学習社）、明解 歴史総合図説 シンフォニア 三訂版（帝国書院） 要点整理ゼミナール 歴史総合（浜島書店）	
科目名	歴史総合	対象年次	第1学年	授業の進め方	諸資料を用いて、個人・グループでの思考・判断・表現を伴う探究活動を定期的に行う。 定期的なポートフォリオ（単元の振り返り等）で学習内容を確認しながら進める。	
学習目標	・近現代の歴史に関わる事象の意義や特色を、現代社会とのつながり等に注目して多角的に考察したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ・現代の諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身につける。			学習方法（留意点）	①予習：教科書に目を通し、記述内容を把握する。疑問や不明な点を整理する。 ②授業：授業時間が最も重要。授業中に理解するつもりで臨む。 ③復習：教科書や授業プリントを見直し、問題集を解く。 ④考査前は、問題集を繰り返し解く。課題には必ず取り組む。	
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	現代の諸課題に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切に調べ、まとめる技能を身につけている。		近現代の歴史に関わる事象の意義や特色を多角的に考察したり、それらを基に効果的に説明、議論したりする力を身につけている。		近現代の歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究・解決しようとする態度を身につけている。	
月	単元・学習項目	学習内容・ねらい	評価の観点			評価の方法
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
8	第5節 帝国主義の発展 ①帝国主義の時代 ②列強の世界政策	・列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。	○		○	
9	③日清戦争と中国分割 ④日露戦争とアジア ⑤日本の工業化と社会運動の高揚 ⑥日本の帝国主義と東アジア 第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第1節 第一次世界大戦と大衆社会	・帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。	○	○	○	授業プリント【知】【思】 定期考査【知】【思】 授業態度（出欠含む）【主】 ポートフォリオ【主】 課題の取り組み状況【主】
10	①第一次世界大戦 ②ロシア革命とソ連の成立 【 中間考査 】 ③ヴェルサイユ＝ワシントン体制 ④アジア諸国の独立運動 ⑤東アジアの民族運動と日本 ⑥アメリカの大衆社会	・第一次世界大戦の展開、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。 ・第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現する。	○	○	○	授業プリント【知】【思】 定期考査【知】【思】 授業態度（出欠含む）【主】 ポートフォリオ【主】 課題の取り組み状況【主】
11	⑦大正デモクラシーと日本社会の変化 第2節 経済危機と第二次世界大戦 ①世界恐慌 ②ファシズム・軍部の台頭 ③ファシズムの対外侵略と国際秩序の変化 【 期末考査 】	・世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動揺を理解する。 ・第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。	○	○	○	授業プリント【知】【思】 定期考査【知】【思】 授業態度（出欠含む）【主】 ポートフォリオ【主】 課題の取り組み状況【主】
12	④日中戦争の開始と戦時体制下の日本 ⑤第二次世界大戦の開始 ⑥第二次世界大戦の終結 第3節 第二次世界大戦の戦後処理と新たな国際秩序の形成 ①国際連合と国際経済体制 ②冷戦の開始とアジアへの波及	・経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。		○	○	授業プリント【知】【思】 定期考査【知】【思】 授業態度（出欠含む）【主】 ポートフォリオ【主】 課題の取り組み状況【主】
振り返り 反省				観点別評価の割合		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
				40%	30%	30%

教科名	地理歴史	単位数	2	使用教材	高等学校 歴史総合（第一学習社）、明解 歴史総合図説 シンフォニア 三訂版（帝国書院） 要点整理ゼミナール 歴史総合（浜島書店）
科目名	歴史総合	対象年次	第1学年	授業の進め方	諸資料を用いて、個人・グループでの思考・判断・表現を伴う探究活動を定期的実施する。 定期的なポートフォリオ（単元の振り返り等）で学習内容を確認しながら進める。
学習目標	・近現代の歴史に関わる事象の意義や特色を、現代社会とのつながり等に着目して多角的に考察したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ・現代の諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身につける。			学習方法 (留意点)	①予習:教科書に目を通し、記述内容を把握する。疑問や不明な点を整理する。 ②授業:授業時間が最も重要。授業中に理解するつもりで臨む。 ③復習:教科書や授業プリントを見直し、問題集を解く。 ④考査前は、問題集を繰り返し解く。課題には必ず取り組む。
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	現代の諸課題に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切に調べ、まとめる技能を身につけている。		近現代の歴史に関わる事象の意義や特色を多角的に考察したり、それらを基に効果的に説明、議論したりする力を身につけている。		近現代の歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究・解決しようとする態度を身につけている。
月	単元・学習項目		学習内容・ねらい		評価の観点 知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度
1	③敗戦国の戦後改革と日本国憲法の制定 ④平和条約と日本の独立回復 第3章 グローバル化と私たち 第1節 冷戦と脱植民地化・第三世界の台頭 ①アジア諸国の独立と中東戦争 ②アフリカ諸国の独立と第三世界の台頭 ③核戦争の危機から核軍縮へ ④西側諸国の多極化と日本の動向 ⑤日本の高度経済成長とアジアとの関係回復 ⑥米中の動揺とベトナム戦争		・第二次世界大戦後の各国の動きについて、特に日本における戦前・戦後の変化に注目し、他国と比較しながら考察する。 ・脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理などを基に、国際政治の変容を理解する。 ・西ヨーロッパや東南アジアの地域連携、計画経済、日本の高度経済成長などを基に、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解する。 ・地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して、津地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多角的に考察し、表現する。		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
2	第2節 国際秩序の変容と21世紀の世界 ①石油危機とイスラーム復興 ②東南アジア・東アジアの経済成長 ③冷戦の終結とソ連の解体 【 学 年 末 考 査 】 ④地域紛争の頻発とアメリカの動揺		・石油危機、アジアの諸地域の経済発展、市場開放と経済の自由化、情報通信技術の発展などを基に、市場経済の変容と課題を理解する。 ・冷戦の終結、民主化の進展、地域統合の拡大と変容、地域紛争の拡散とそれへの対応などを基に、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。 ・冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現する。		○ ○ ○ ○ ○ ○
3	⑤グローバル化と地域統合の動き ⑥情報通信技術の発展と環境問題への対応 現代的な諸課題の形成と展望		・持続可能な社会の実現を視野に入れ、自ら主題を設定し、歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題について理解する。		○ ○ ○
振り返り 反省	観点別評価の割合				知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度 40% 30% 30%

教科名	地理歴史	単位数	2	使用教材	高等学校 歴史総合(第一学習社)、明解 歴史総合図説 シンフォニア 三訂版(帝国書院) 要点整理ゼミナール 歴史総合(浜島書店)		
科目名	歴史総合	対象年次	第2学年	授業の進め方	諸資料を用いて、個人・グループでの思考・判断・表現を伴う探究活動を定期的に実施する。 定期的なポートフォリオ(単元の振り返り等)で学習内容を確認しながら進める。		
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> 近現代の歴史に関わる事象の意義や特色を、現代社会とのつながり等に着目して多角的に考察したり、それらを基に議論したりする力を養う。 現代の諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身につける。 			学習方法(留意点)	<ul style="list-style-type: none"> ①予習:教科書に目を通し、記述内容を把握する。疑問や不明な点を整理する。 ②授業:授業時間が最も重要。授業中に理解するつもりで臨む。 ③復習:教科書や授業プリントを見直し、問題集を解く。 ④考査前は、問題集を繰り返し解く。課題には必ず取り組む。 		
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	現代の諸課題に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切に調べ、まとめる技能を身につけている。		近現代の歴史に関わる事象の意義や特色を多角的に考察したり、それらを基に効果的に説明、議論したりする力を身につけている。		近現代の歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究・解決しようとする態度を身につけている。		
月	単元・学習項目	学習内容・ねらい	評価の観点			評価の方法	
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
4	第1部 歴史の扉 ①歴史と私たち ②歴史の特質と資料 第2部 近現代の世界と日本 第1章 近代化と私たち	<ul style="list-style-type: none"> 私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に、それらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解する。 世界の様々な地域の人々の歴史的な営みの痕跡や記録である遺物、文書、画像などの資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解する。 複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読み取った情報の意味や意義、特色などを考察し、表現する。 	○	○	○	授業プリント【知】【思】 定期考査【知】【思】 授業態度(出欠含む)【主】 ポートフォリオ【主】 課題の取り組み状況【主】	
5	第1節 18世紀のアジアの繁栄 ①18世紀の東アジアの政治と国際秩序 ②18世紀の東アジアの経済と社会 第2節 産業革命と市民革命 ①国際商業の覇権争いと大西洋三角貿易 ②農業社会から工業社会へ—産業革命 【中間考査】	<ul style="list-style-type: none"> 18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会を理解する。 18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。 産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開国などを基に、工業化と世界市場の形成を理解する。 	○	○	○	授業プリント【知】【思】 定期考査【知】【思】 授業態度(出欠含む)【主】 ポートフォリオ【主】 課題の取り組み状況【主】	
6	③アメリカ独立革命 ④フランス革命 ⑤イギリスに挑戦したナポレオン ⑥大西洋をこえて広がった革命 第3節 イギリスの繁栄と国民国家の拡大 ①イギリスの繁栄 ②後発国による「上からの近代化」 ③ロシアの近代化と南下政策 ④アメリカ合衆国の膨張 【期末考査】	<ul style="list-style-type: none"> 18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解する。 国民国家の形成の背景や影響などに着目して、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。 	○	○	○	授業プリント【知】【思】 定期考査【知】【思】 授業態度(出欠含む)【主】 ポートフォリオ【主】 課題の取り組み状況【主】	
7	第4節 アジア諸国の変貌と日本の開国 ①オスマン帝国の衰退と西アジア ②南アジアと東南アジアの植民地化 ③東アジアの動揺 ④東アジアの情勢と改革 ⑤明治初期日本の外交と東アジアの国際秩序 ⑥日本の立憲国家への道のり	<ul style="list-style-type: none"> ヨーロッパやアメリカの進出に対し、アジア諸国がどのように対応したのか、各国の対応の違いにも着目しながら理解する。 明治初期の日本の外交について理解を深め、特に東アジアの国際秩序の変化を多角的に捉えて考察し、表現する。 	○	○	○	授業プリント【知】【思】 定期考査【知】【思】 授業態度(出欠含む)【主】 ポートフォリオ【主】 課題の取り組み状況【主】	
振り返り 反省				観点別評価の割合			
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
					40%	30%	30%

教科名	地理歴史	単位数	2	使用教材	高等学校 歴史総合（第一学習社）、明解 歴史総合図説 シンフォニア 三訂版（帝国書院） 要点整理ゼミナール 歴史総合（浜島書店）				
科目名	歴史総合	対象年次	第2学年	授業の進め方	諸資料を用いて、個人・グループでの思考・判断・表現を伴う探究活動を定期的を実施する。 定期的なポートフォリオ（単元の振り返り等）で学習内容を確認しながら進める。				
学習目標	・近現代の歴史に関わる事象の意義や特色を、現代社会とのつながり等に着目して多角的に考察したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ・現代の諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身につける。			学習方法（留意点）	①予習：教科書に目を通し、記述内容を把握する。疑問や不明な点を整理する。 ②授業：授業時間が最も重要。授業中に理解するつもりで臨む。 ③復習：教科書や授業プリントを見直し、問題集を解く。 ④考查前は、問題集を繰り返し解く。課題には必ず取り組む。				
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				
	現代の諸課題に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切に調べ、まとめる技能を身につけている。		近現代の歴史に関わる事象の意義や特色を多角的に考察したり、それらを基に効果的に説明、議論したりする力を身につけている。		近現代の歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究・解決しようとする態度を身につけている。				
月	単元・学習項目		学習内容・ねらい		評価の観点		評価の方法		
					知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
8	第5節 帝国主義の発展 ①帝国主義の時代 ②列強の世界政策		・列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の姿容を理解する。		○		○	授業プリント【知】【思】 定期考査【知】【思】 授業態度(出欠含む)【主】 ポートフォリオ【主】 課題の取り組み状況【主】	
9	③日清戦争と中国分割 ④日露戦争とアジア ⑤日本の工業化と社会運動の高揚 ⑥日本の帝国主義と東アジア 第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第1節 第一次世界大戦と大衆社会		・帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・第一次世界大戦の展開、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。		○	○	○		
10	①第一次世界大戦 ②ロシア革命とソ連の成立 【 中間考査 】 ③ヴェルサイユ=ワシントン体制 ④アジア諸国の独立運動 ⑤東アジアの民族運動と日本 ⑥アメリカの大衆社会		・第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現する。		○	○	○	授業プリント【知】【思】 定期考査【知】【思】 授業態度(出欠含む)【主】 ポートフォリオ【主】 課題の取り組み状況【主】	
11	⑦大正デモクラシーと日本社会の変化 第2節 経済危機と第二次世界大戦 ①世界恐慌 ②ファシズム・軍部の台頭 ③ファシズムの対外侵略と国際秩序の変化 【 期末考査 】		・世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動揺を理解する。 ・第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。		○		○		
12	④日中戦争の開始と戦時体制下の日本 ⑤第二次世界大戦の開始 ⑥第二次世界大戦の終結 第3節 第二次世界大戦の戦後処理と新たな国際秩序の形成 ①国際連合と国際経済体制 ②冷戦の開始とアジアへの波及		・経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。			○	○	授業プリント【知】【思】 定期考査【知】【思】 授業態度(出欠含む)【主】 ポートフォリオ【主】 課題の取り組み状況【主】	
振り返り 反省					観点別評価の割合		知識・技能 40%		思考・判断・表現 30%

教科名	地理歴史	単位数	2	使用教材	高等学校 歴史総合（第一学習社）、明解 歴史総合図説 シンフォニア 三訂版（帝国書院） 要点整理ゼミナール 歴史総合（浜島書店）			
科目名	歴史総合	対象年次	第2学年	授業の進め方	諸資料を用いて、個人・グループでの思考・判断・表現を伴う探究活動を定期的実施する。 定期的なポートフォリオ（単元の振り返り等）で学習内容を確認しながら進める。			
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> 近現代の歴史に関わる事象の意義や特色、現代社会とのつながり等に着目して多角的に考察したり、それらを基に議論したりする力を養う。 現代の諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身につける。 			学習方法 (留意点)	<ul style="list-style-type: none"> ①予習:教科書に目を通し、記述内容を把握する。疑問や不明な点を整理する。 ②授業:授業時間が最も重要。授業中に理解するつもりで臨む。 ③復習:教科書や授業プリントを見直し、問題集を解く。 ④査前は、問題集を繰り返し解く。課題には必ず取り組む。 			
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	現代の諸課題に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切に調べ、まとめる技能を身につけている。		近現代の歴史に関わる事象の意義や特色を多角的に考察したり、それらを基に効果的に説明、議論したりする力を身につけている。		近現代の歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究・解決しようとする態度を身につけている。			
月	単元・学習項目		学習内容・ねらい		評価の観点			評価の方法
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1	<ul style="list-style-type: none"> ③敗戦国の戦後改革と日本国憲法の制定 ④平和条約と日本の独立回復 		<ul style="list-style-type: none"> 第二次世界大戦後の各国の動きについて、特に日本における戦前・戦後の変化に注目し、他国と比較しながら考察する。 		○	○	○	授業プリント【知】【思】 定期考査【知】【思】 授業態度(出欠含む)【主】 ポートフォリオ【主】 課題の取り組み状況【主】
	第3章 グローバル化と私たち 第1節 冷戦と脱植民地化・第三世界の台頭 <ul style="list-style-type: none"> ①アジア諸国の独立と中東戦争 ②アフリカ諸国の独立と第三世界の台頭 ③核戦争の危機から核軍縮へ ④西側諸国の多極化と日本の動向 ⑤日本の高度経済成長とアジアとの関係回復 		<ul style="list-style-type: none"> 脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理などを基に、国際政治の変容を理解する。 西ヨーロッパや東南アジアの地域連携、計画経済、日本の高度経済成長などを基に、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解する。 地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して、津地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多角的に考察し、表現する。 		○	○	○	
2	<ul style="list-style-type: none"> ⑥米中の動揺とベトナム戦争 		<ul style="list-style-type: none"> 石油危機、アジアの諸地域の経済発展、市場開放と経済の自由化、情報通信技術の発展などを基に、市場経済の変容と課題を理解する。 冷戦の終結、民主化の進展、地域統合の拡大と変容、地域紛争の拡散とそれへの対応などを基に、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。 		○	○	○	授業プリント【知】【思】 定期考査【知】【思】 授業態度(出欠含む)【主】 ポートフォリオ【主】 課題の取り組み状況【主】
	第2節 国際秩序の変容と21世紀の世界 <ul style="list-style-type: none"> ①石油危機とイスラーム復興 ②東南アジア・東アジアの経済成長 ③冷戦の終結とソ連の解体 【学年末考査】		<ul style="list-style-type: none"> 冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現する。 持続可能な社会の実現を視野に入れ、自ら主題を設定し、歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題について理解する。 		○	○	○	
3	<ul style="list-style-type: none"> ④地域紛争の頻発とアメリカの動揺 ⑤グローバル化と地域統合の動き ⑥情報通信技術の発展と環境問題への対応 現代的な諸課題の形成と展望		<ul style="list-style-type: none"> 冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現する。 持続可能な社会の実現を視野に入れ、自ら主題を設定し、歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題について理解する。 		○	○	○	授業プリント【知】【思】 定期考査【知】【思】 授業態度(出欠含む)【主】 ポートフォリオ【主】 課題の取り組み状況【主】
振り返り 反省					観点別評価の割合			
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
				40%	30%	30%		

教科名	地理歴史科	単位数	3	使用教材	教科書：帝国書院 高等学校新地理総合 地図：帝国書院 標準高等地図 資料：帝国書院 新詳地理資料 COMPLETE2024、							
科目名	地理総合	対象年次	1、2年	授業の進め方	教科書を中心にして学習し、確認プリントや問題集でまとめを行いながら進める。 教科書にある「確認」「深い学び」に取り組み、授業内容の確認をする。							
学習目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。			学習方法 (留意点)	①予習：教科書に目を通し、記述内容を把握する。疑問や不明な点を整理する。 ②授業：授業時間が最も重要。授業中に完全に理解するつもりで、質問するなど、集中して授業に臨む。 ③復習：教科書やノートを見直し、問題に取り組む。 ④査考前は、問題集や確認プリントを繰り返し解く。課題には必ず取り組む。							
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度							
	学習を通して得た知識及び技能を既知の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているか。		知識及び技能を活用して課題を解決する 等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているか。		知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行い、自らの学習を調整しようとしているか。							
月	単元・学習項目		学習内容・ねらい		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">評価の観点</th> <th rowspan="2">評価の方法</th> </tr> <tr> <th>知識・技能</th> <th>思考・判断・表現</th> <th>主体的に学習に取り組む態度</th> </tr> </thead> </table>	評価の観点			評価の方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点			評価の方法									
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度										
4	第1部 第2章結び付きを深める現代世界 1節 現代世界の国家と領域 2節 グローバル化する世界 1 国家間の結びつき		<ul style="list-style-type: none"> ・国境の種類、国家の領域、国家の主権について理解する。 ・日本の位置と領域、排他的経済水域の特徴、日本の領土をめぐる問題について、多面的・多角的に考察し、表現できる。 ・国際関係と紛争の変化、国連が果たす役割、経済のグローバル化と地域ごとの経済的な結びつきについて理解する。 		<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td rowspan="2">学習プリント 発問評価 授業ノート 定期考査</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table>	○	○	○	学習プリント 発問評価 授業ノート 定期考査	○	○	○
○	○	○	学習プリント 発問評価 授業ノート 定期考査									
○	○	○										
5	2 貿易によって結びつく世界 3 さまざまな交通網の発達 4 世界を結ぶ通信網の発達 5 観光のグローバル化 【中間考査】		<ul style="list-style-type: none"> ・暮らしを支える貿易、貿易の変化と国際分業の成立、自由化する世界の貿易について理解する。 ・通信技術の発達と一体化する世界、情報通信技術の発達で変化する生活行動、情報通信技術が生み出す格差について、多面的・多角的に考察し、表現できる。 ・通信技術の発達と一体化する世界、情報通信技術の発達で変化する生活行動、情報通信技術が生み出す格差について理解する。 ・観光のグローバル化、多様化する観光のスタイルについて、多面的・多角的に考察し、表現できる。 		<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td rowspan="2">学習プリント 発問評価 授業ノート 定期考査</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table>	○	○	○	学習プリント 発問評価 授業ノート 定期考査	○	○	○
○	○	○	学習プリント 発問評価 授業ノート 定期考査									
○	○	○										
6	第2部 第1章 生活文化の多様性と国際理解 1節 世界の地形と人々の生活 1 大地形と人々の生活、2変動帯と人々の生活 3 安定陸塊と人々の生活 4 河川が作る地形と人々の生活 5 海岸の地形と人々の生活 【期末考査】		<ul style="list-style-type: none"> ・生活の舞台となる陸地、地形をつくる営力、大地形を構成する変動帯と安定地域、地震・火山と生活への影響について理解する。 ・安定地域の平野と生活への影響、安定地域の山地と生活への影響について理解する。 ・地形図を使って、河川が作る地形と生活の関わり、上・中流域の地形と生活への影響、下流域の地形と生活への影響について、多面的・多角的に考察し、表現できる。 ・海の恵みを生かした産業、海岸の地形と生活の関わりについて理解する。 		<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td rowspan="2">学習プリント 発問評価 授業ノート 定期考査</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table>	○	○	○	学習プリント 発問評価 授業ノート 定期考査	○	○	○
○	○	○	学習プリント 発問評価 授業ノート 定期考査									
○	○	○										
7	第1部 第1章地図と地理情報システム 1節 地球上の位置と時差 2節 地図の役割と種類		<ul style="list-style-type: none"> ・時差のしくみ、時差が生活に与える影響について理解する。 ・地理情報システム(GIS)のしくみやこれを支える技術、GISの活用場面について理解する。 		<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td rowspan="2">学習プリント 発問評価 授業ノート 定期考査</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table>	○	○	○	学習プリント 発問評価 授業ノート 定期考査	○	○	○
○	○	○	学習プリント 発問評価 授業ノート 定期考査									
○	○	○										
振り返り 反省	観点別評価の割合				<table border="1"> <tr> <td>知識・技能</td> <td>思考・判断・表現</td> <td>主体的に学習に取り組む態度</td> </tr> <tr> <td>35%</td> <td>35%</td> <td>30%</td> </tr> </table>	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	35%	35%	30%	
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度										
35%	35%	30%										

教科名	地理歴史科	単位数	3	使用教材	教科書：帝国書院 高等学校新地理総合 地図：帝国書院 標準高等地図 資料：帝国書院 新詳地理資料 COMPLETE2024、																													
科目名	地理総合	対象年次	1, 2年	授業の進め方	教科書を中心にして学習し、確認プリントや問題集でまとめを行いながら進める。 教科書にある「確認」「深い学び」に取り組み、授業内容の確認をする。																													
学習目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。			学習方法 (留意点)	①予習：教科書に目を通し、記述内容を把握する。疑問や不明な点を整理する。 ②授業：授業時間が最も重要。授業中に完全に理解するつもりで、質問するなど、集中して授業に臨む。 ③復習：教科書やノートを見直し、問題に取り組む。 ④考査前は、問題集や確認プリントを繰り返し解く。課題には必ず取り組む。																													
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度																													
	学習を通して得た知識及び技能を既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているか。		知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているか。		知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに 向けた粘り強い取組を行い、自らの学習を調整しようとしているか。																													
月	単元・学習項目		学習内容・ねらい		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">評価の観点</th> <th rowspan="2">評価の方法</th> </tr> <tr> <th>知識・技能</th> <th>思考・判断・表現</th> <th>主体的に学習に取り組む態度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8</td> <td>第2部 第1章 生活文化の多様性と国際理解 2節 世界の気候と人々の生活 1 気温・降水と人々の生活 2 大気大循環と人々の生活</td> <td>・気候が生活に与える影響、気温のしくみと分布の特徴、降水のしくみと分布の特徴について、多面的・多角的に考察し、表現できる。 ・植生と気候の関わり、ケッペンの気候区分について理解する ・高温多湿な熱帯の気候・植生と生活との関わりについて理解する。 ・水の少ない乾燥帯の気候・植生と生活との関わりについて理解する。 ・季節の変化に富む温帯の気候・植生と生活との関わりについて、多面的・多角的に考察し、表現できる。 ・冬が長い亜寒帯の気候・植生と生活との関わり、雪と氷に覆われる寒帯の気候・植生と生活との関わりについて理解する。</td> <td>○ ○ ○ ○</td> <td rowspan="3">学習プリント 発問評価 授業ノート 定期考査</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>3 世界の食性と気候区分 4 熱帯の生活 5 乾燥帯の生活 6 温帯の生活 7 亜寒帯・寒帯の生活</td> <td>・言語と民族の関わり、公用語と人々の生活への影響について理解する。 ・宗教の食生活への影響、宗教と生活の関わりについて、多面的・多角的に考察し、表現できる。</td> <td>○ ○ ○</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>3節 世界の言語・宗教と人々の生活 1 世界の言語と人々の生活文化 2 世界の宗教と人々の生活文化 【中間考査】 4節 歴史的背景と人々の生活</td> <td>・人々の工夫と農業の発展、農業の発展と生産性、農業の近代化とその課題について理解する。 ・工業の発達と生活の変化、工業地域の地域差について理解する。 ・企業活動のグローバル化と人々の生活への影響、脱工業化社会と人々の生活について理解する。</td> <td>○ ○ ○ ○</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>5節 世界の産業と人々の生活 1 人々の生活を支える農業の発展 2 人々の生活を支える工業の発展 3 グローバル化する現代の産業と人々の生活 【期末考査】</td> <td>・地球的課題の背景にある経済格差、地球的課題の解決に向けての取り組みや私たちにできることについて理解する。 ・地球環境問題の種類、地球環境問題の背景について、多面的・多角的に考察し、表現できる。</td> <td>○ ○ ○ ○</td> <td rowspan="2">学習プリント 発問評価 新地理総合ノート 授業ノート 定期考査</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>第2章 地球的課題と国際協力 1節 複雑に絡み合う地球的課題 2節 地球環境問題</td> <td></td> <td>○ ○</td> </tr> </tbody> </table>	評価の観点			評価の方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	8	第2部 第1章 生活文化の多様性と国際理解 2節 世界の気候と人々の生活 1 気温・降水と人々の生活 2 大気大循環と人々の生活	・気候が生活に与える影響、気温のしくみと分布の特徴、降水のしくみと分布の特徴について、多面的・多角的に考察し、表現できる。 ・植生と気候の関わり、ケッペンの気候区分について理解する ・高温多湿な熱帯の気候・植生と生活との関わりについて理解する。 ・水の少ない乾燥帯の気候・植生と生活との関わりについて理解する。 ・季節の変化に富む温帯の気候・植生と生活との関わりについて、多面的・多角的に考察し、表現できる。 ・冬が長い亜寒帯の気候・植生と生活との関わり、雪と氷に覆われる寒帯の気候・植生と生活との関わりについて理解する。	○ ○ ○ ○	学習プリント 発問評価 授業ノート 定期考査	9	3 世界の食性と気候区分 4 熱帯の生活 5 乾燥帯の生活 6 温帯の生活 7 亜寒帯・寒帯の生活	・言語と民族の関わり、公用語と人々の生活への影響について理解する。 ・宗教の食生活への影響、宗教と生活の関わりについて、多面的・多角的に考察し、表現できる。	○ ○ ○	10	3節 世界の言語・宗教と人々の生活 1 世界の言語と人々の生活文化 2 世界の宗教と人々の生活文化 【中間考査】 4節 歴史的背景と人々の生活	・人々の工夫と農業の発展、農業の発展と生産性、農業の近代化とその課題について理解する。 ・工業の発達と生活の変化、工業地域の地域差について理解する。 ・企業活動のグローバル化と人々の生活への影響、脱工業化社会と人々の生活について理解する。	○ ○ ○ ○	11	5節 世界の産業と人々の生活 1 人々の生活を支える農業の発展 2 人々の生活を支える工業の発展 3 グローバル化する現代の産業と人々の生活 【期末考査】	・地球的課題の背景にある経済格差、地球的課題の解決に向けての取り組みや私たちにできることについて理解する。 ・地球環境問題の種類、地球環境問題の背景について、多面的・多角的に考察し、表現できる。	○ ○ ○ ○	学習プリント 発問評価 新地理総合ノート 授業ノート 定期考査	12	第2章 地球的課題と国際協力 1節 複雑に絡み合う地球的課題 2節 地球環境問題		○ ○
評価の観点			評価の方法																															
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度																																
8	第2部 第1章 生活文化の多様性と国際理解 2節 世界の気候と人々の生活 1 気温・降水と人々の生活 2 大気大循環と人々の生活	・気候が生活に与える影響、気温のしくみと分布の特徴、降水のしくみと分布の特徴について、多面的・多角的に考察し、表現できる。 ・植生と気候の関わり、ケッペンの気候区分について理解する ・高温多湿な熱帯の気候・植生と生活との関わりについて理解する。 ・水の少ない乾燥帯の気候・植生と生活との関わりについて理解する。 ・季節の変化に富む温帯の気候・植生と生活との関わりについて、多面的・多角的に考察し、表現できる。 ・冬が長い亜寒帯の気候・植生と生活との関わり、雪と氷に覆われる寒帯の気候・植生と生活との関わりについて理解する。	○ ○ ○ ○	学習プリント 発問評価 授業ノート 定期考査																														
9	3 世界の食性と気候区分 4 熱帯の生活 5 乾燥帯の生活 6 温帯の生活 7 亜寒帯・寒帯の生活	・言語と民族の関わり、公用語と人々の生活への影響について理解する。 ・宗教の食生活への影響、宗教と生活の関わりについて、多面的・多角的に考察し、表現できる。	○ ○ ○																															
10	3節 世界の言語・宗教と人々の生活 1 世界の言語と人々の生活文化 2 世界の宗教と人々の生活文化 【中間考査】 4節 歴史的背景と人々の生活	・人々の工夫と農業の発展、農業の発展と生産性、農業の近代化とその課題について理解する。 ・工業の発達と生活の変化、工業地域の地域差について理解する。 ・企業活動のグローバル化と人々の生活への影響、脱工業化社会と人々の生活について理解する。	○ ○ ○ ○																															
11	5節 世界の産業と人々の生活 1 人々の生活を支える農業の発展 2 人々の生活を支える工業の発展 3 グローバル化する現代の産業と人々の生活 【期末考査】	・地球的課題の背景にある経済格差、地球的課題の解決に向けての取り組みや私たちにできることについて理解する。 ・地球環境問題の種類、地球環境問題の背景について、多面的・多角的に考察し、表現できる。	○ ○ ○ ○	学習プリント 発問評価 新地理総合ノート 授業ノート 定期考査																														
12	第2章 地球的課題と国際協力 1節 複雑に絡み合う地球的課題 2節 地球環境問題		○ ○																															
振り返り 反省	観点別評価の割合				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度																											
					35%	35%	30%																											

教科名	地理歴史科	単位数	3	使用教材	教科書：帝国書院 高等学校新地理総合 地図：帝国書院 標準高等地図 資料：帝国書院 新詳地理資料 COMPLETE2024、	
科目名	地理総合	対象年次	1、2年	授業の進め方	教科書を中心にして学習し、確認プリントや問題集でまとめを行いながら進める。 教科書にある「確認」「深い学び」に取り組み、授業内容の確認をする。	
学習目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。			学習方法 (留意点)	①予習：教科書に目を通し、記述内容を把握する。疑問や不明な点を整理する。 ②授業：授業時間が最も重要。授業中に完全に理解するつもりで、質問するなど、集中して授業に臨む。 ③復習：教科書やノートを見直し、問題に取り組む。 ④考査前は、問題集や確認プリントを繰り返し解く。課題には必ず取り組む。	
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	学習を通して得た知識及び技能を既得の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているか。		知識及び技能を活用して課題を解決する 等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているか。		知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに 向けた粘り強い取組を行い、自らの学習を調整しようとしているか。	
月	単元・学習項目	学習内容・ねらい	評価の観点			評価の方法
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習 に取り組む態度	
1	3節 資源・エネルギー問題	・エネルギーの種類と資源利用の変化、国によって異なる電力構成、鉱産資源の利用について理解する。	○	○	○	学習プリント 発問評価 新地理総合ノート 授業ノート 定期考査
	4節 人口問題	・世界の人口分布と人口増加の傾向、人口ピラミッドからみる国や地域人口の特徴について理解する。	○	○	○	
	5節 食糧問題	・発展途上国の飢餓の問題、先進国に偏る食料の問題について理解する。	○	○	○	
	6節 都市・居住問題	・都市の発達、大都市の形成と分布、都市内部の機能と構造について理解する。	○	○	○	
2	第3部持続可能な地域づくりと私たち					学習プリント 発問評価 新地理総合ノート 授業ノート 定期考査
	第1章 自然環境と防災					
	1節 日本の自然環境	・明瞭な季節変化、降水量の季節変化と地域差、日本の都市気候について理解する。				
	2節 地震・津波と防災	・地震の種類と特徴、地域で異なる震災の被害について理解しており、地理的スキルを身に付ける。	○	○	○	
	3節 火山災害と防災	・火山の恵み・災害と共生する鳥原市や鹿児島市の取り組みについて理解し、地理的スキルを身に付ける。	○	○	○	
4節 気象災害と防災	・台風による水害の課題や大雪による積雪の影響と取り組みについて理解し、地理的スキルを身に付ける。					
5節 自然災害の備え	・被災地の自助・共助・公助、復旧・復興の取り組みについて理解し、地理的スキルを身に付ける。					
		【学年末考査】				
3	第2章 生活圏の調査と地域の展望	・生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取り組みや探究する手法などについて理解する。	○	○	○	学習プリント 発問評価 新地理総合ノート 授業ノート 定期考査
振り返り 反省				観点別評価の割合		
				知識・技能	思考・判断・表現	
			35%	35%	30%	

教科名	数学	単位数	3	使用教材	教科書：数研出版 最新 数学 I 問題集：数研出版 基本～標準 パラレルノート数学 I 数研出版 3 ROUND 数学 I		
科目名	数学 I	対象年次	1年	授業の進め方	基本的に教科書を進めていく。定期的の問題集・プリントで練習する。 章末問題や確認テストなどによって確認する。		
学習目標	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。			学習方法 (留意点)	①予習：教科書に目を通す。(例題を解き、疑問点をまとめておくとよい) ②復習：授業中に解けなかった問題を再度解く。週末課題として、3ROUND 数学 I をやる。 ③内容の確認のためにパラレルノートを解く。更なる向上を目指すために問題集に積極的に取り組む。 (事前に指示がある)		
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
月	単元・学習項目		学習内容・ねらい		評価の観点 知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	評価の方法	
4	第1章 数と式 ○多項式 ○多項式の加法・減法・乗法 ○展開の公式 ○式の展開の工夫 ○因数分解(基本) ○いろいろな因数分解(応用)		□多項式を正しく整理することができる □多項式の計算できる □公式を利用して正しく展開できる □式の特徴をつかんで展開できる □公式を使って因数分解できる □式の特徴をつかんで因数分解できる		○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	宿題テスト 単元テスト 学習態度 自己評価プリント
5	○実数 ○根号を含む式の計算 ○問題演習 ○不等式 ○不等式の性質 ○1次不等式の解き方 【中間考査】		□実数、絶対値の意味が理解できる □分母の有理化などルート計算ができる □不等式の性質を正しく扱うことができる □不等式の性質を理解できる □性質に注意して計算ができる		○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	定期考査 単元テスト 課題・ノート提出 学習態度 自己評価プリント
6	○連立不等式 ○不等式の利用 第2章 集合と命題 ○集合と部分集合 ○共通部分、和集合、補集合 ○命題と集合 ○命題と証明 ○問題演習 【期末考査】		□共通解を求めることができる □文章を理解して立式できる □様々な集合を求めることができる □様々な集合を求めることができる □正しく条件等が求められる □論理的な証明ができる		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	定期考査 単元テスト 課題・ノート提出 学習態度 自己評価プリント
7	第3章 2次関数 ○関数 ○2次関数のグラフ① ○2次関数のグラフ②		□関数をグラフ化できる □グラフの移動と式との関係が理解できる □グラフの移動と式との関係が理解できる		○ ○ ○	○ ○ ○	単元テスト 学習態度 自己評価プリント
振り返り 反省					観点別評価の割合	知識・技能 % 思考・判断・表現 % 主体的に学習に取り組む態度 %	

教科名	理科	単位数	2	使用教材	高等学校 新物理基礎 (第一学習社) アプローチ物理基礎 (第一学習社)			
科目名	物理基礎	対象年次	1	授業の進め方	教科書を中心にして学習し、確認プリントや問題集でまとめを行いながら進める。 教科書にある簡単な観察、実験内容を生徒実験や演示実験などによって確認する。			
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。 			学習方法 (留意点)	<ul style="list-style-type: none"> ①予習:教科書に目を通し、記述内容を把握する。疑問や不明な点を整理する。 ②授業:授業時間が最も重要。授業中に完全に理解するつもりで、質問するなど、集中して授業に臨む。 ③復習:教科書やノートを見直し、問題集を解く。 ④調査前は、問題集や確認プリントを繰り返し解く。課題には必ず取り組む。 			
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	自然の事象・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。		自然の事象・現象の中に問題を見だし、見直しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。		自然の事象・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。			
月	単元・学習項目	学習内容・ねらい			評価の観点	評価の方法		
					知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	第1章 運動とエネルギー 第1節 物体の運動 ①速さ ②等速直線運動 ③変位と速度 ④速度の合成・相対速度 ⑤加速度 ⑥等加速度直線運動(1) ⑦等加速度直線運動(2) 探究1 加速度運動とグラフ ⑧重力加速度と自由落下	<ul style="list-style-type: none"> 物体の変位や速度などの表し方について、直線運動を中心に理解する。 直線上を運動している物体の合成速度や相対速度を計算することができる。 物体の加速度を理解し、等加速度直線運動について式やグラフで考えることができる。 物体が空中を落下するときの運動を調べ、その特徴を理解する。 自由落下や鉛直投射について、式やグラフを用いて考えることができる。 (1)等速直線運動の速さや移動距離を計算することができる。 (2)速さと速度の違いを理解している。 (3)速度の合成や、相対速度に関する現象を観察し、それぞれを式で表すことができる。 (4)加速度を計算することができる。 (5)等加速度直線運動の式を用いて、それぞれの物理量を計算することができる。 (6)記録タイマーの使い方理解し、得られた打点結果から加速度を求めることができる。 (7)落下する物体の運動は、鉛直下向きの加速度をもつ等加速度運動であることを理解する。 (8)速さと速度の違いを説明することができる。 (9) x-t グラフや v-t グラフから、物体の位置や速度を的確に読み取ることができる。 (10)変位、速度の違いを理解し、それぞれの定義を説明することができる。 (11)日常の現象について、合成速度や相対速度を計算することができる。 (12)等加速度直線運動の特徴を踏まえ、グラフから変位や速度、加速度を読み取ることができる。 (13)落下運動の特徴を理解し、式やグラフを用いて表現できる。 (14)身のまわりの物体の運動に関心を示し、位置や変位、速度を理解しようとする。 (15)速度が変化する日常での事象について意欲的に考え、加速度とはどのような物理量であるかを考察しようとする。 (16)斜面を下る力学台車の加速度の測定など、積極的に実験に取り組んでいる。 (17)物体が落下するときのようなどに関心をもち、それらの現象を物理的に考えようとする。 			○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	授業態度(出欠状況含) 定期考査 小テスト、学習プリント 提出課題 ポートフォリオ 発問評価 実験レポート
5	⑨鉛直投射 ⑩水平投射 探究2 自由落下の加速度 第2節 力と運動の法則 ①力と質量 ②いろいろな力 ③力の合成・分解と成分 ④力のつりあい	<ul style="list-style-type: none"> 物体にさまざまな力がはたらくことを理解する。 物体にはたらく力の合成・分解をベクトルを用いて扱い、つりあいについて理解を深める。 作用・反作用の法則を扱い、つりあう2力との違いを理解する。 運動の3法則について、観察や実験を通して理解する。 物体にさまざまな力がはたらくことを理解する。 物体にはたらく力の合成・分解をベクトルを用いて扱い、つりあいについて理解を深める。 (1)力の表し方とともに、さまざまな力のはたらき方を理解する。 (2)質量と重さの違いを理解し、重力、弾性力を計算することができる。 (3)ベクトルを踏まえ、力の合成・分解・成分を理解する。 (4)2力のつりあい、3力のつりあいについて理解する。 (5)ばねばかりを用いて、はたらく力の大きさを測定できる。 (6)作用・反作用とつりあう2力とを区別することができる。 (7)直角三角形の辺の長さの比を用いて、力の分解や成分を考えることができる。 (8)力のベクトルの性質を踏まえ、つりあいの式を考えることができる。 (9)つりあう2力と作用・反作用の2力の違いを説明できる。 (10)さまざまな状態にある物体について、はたらく力を図示することができる。 (11)日常での経験と照らし合わせて力のはたらきを観察し、物理学的に理解しようとする。 (12)力のつりあいや作用・反作用の法則を確認する実験などに意欲的に取り組んでいる。 (13)物体の慣性について、積極的に実験に取り組み、理解しようとする。 			○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	
6	⑤作用・反作用の法則 ⑥慣性の法則	<ul style="list-style-type: none"> 物体にさまざまな状態にある物体について、はたらく力を図示することができる。 (1)日常での経験と照らし合わせて力のはたらきを観察し、物理学的に理解しようとする。 (2)力のつりあいや作用・反作用の法則を確認する実験などに意欲的に取り組んでいる。 (3)物体の慣性について、積極的に実験に取り組み、理解しようとする。 			○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	
振り返り 反省					観点別評価の割合	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
						96	96	96

教科名	理科	単位数	2	使用教材	教科書：数研出版 新編生物基礎 問題集：数研出版 新課程 新編生物基礎準拠 サポートノート			
科目名	生物基礎	対象年次	1年	授業の進め方	教科書を中心にして学習し、学習プリントや問題集でまとめを行いながら進める。 教科書にある簡単な観察、実験内容を生徒実験や演習実験などによって確認する。			
学習目標	日常生活や社会との関連を回りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			学習方法 (留意点)	①予習：教科書に目を通し、記述内容を把握する。疑問や不明な点を整理する。 ②授業：授業時間が最も重要。授業中に完全に理解するつもりで、質問するなど、集中して授業に臨む。 ③復習：教科書やノートを見直し、問題集を解く。 ④査前は、問題集や学習プリントを繰り返し解く。課題には必ず取り組む。			
評価の観点	知識・理解		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。		自然の事物・現象の中に問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。		自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。			
月	単元・学習項目	学習内容・ねらい			評価の観点 知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	評価の方法		
8	第2章 遺伝子とのはたらき 第3節 遺伝情報の発現 1 遺伝情報とタンパク質 2 タンパク質の合成 3 細胞の分化と遺伝情報 4 遺伝子とゲノム	<ul style="list-style-type: none"> DNAの遺伝情報をもとにタンパク質が合成される、転写・翻訳の過程を理解する。 分化した細胞では、細胞ごとに異なる遺伝子が発現していることを理解する。 アミノ酸配列と、それを指定するDNAの塩基配列を示した資料をもとに、塩基3個がアミノ酸1個に対応していること、塩基3個の配列が同じであればアミノ酸が指定されることに気づき、説明できる。 同じ遺伝情報をもつ受精卵から、異なる形やはたらきをもつ細胞が分化することに気づき、説明できる。 遺伝情報の発現に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。 			○ ○	○ ○	○	
9	第3章 ヒトの体内環境の維持 第1節 体内での情報伝達と調節 1 体内での情報伝達 2 神経系による情報の伝達と調節 3 内分泌系による情報の伝達と調節 ＜実験＞運動によるからだの状態の変化の測定 【中間考査】	<ul style="list-style-type: none"> 体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解する。 自律神経系と内分泌系が、からだを調節するしくみを理解する。 実験「運動によるからだの状態の変化の測定」を行い、運動によってからだに起こる変化を調べる。 運動によって心拍数が増加するしくみを考察し、説明できる。 体内での情報伝達と調節に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。 			○ ○ ○	○	○	
10	第2節 体内環境の維持のしくみ 1 体内環境の維持 2 血糖濃度調節のしくみ 3 血液の循環を維持するしくみ	<ul style="list-style-type: none"> 自律神経系と内分泌系のはたらきによって血糖濃度が調節される仕組みを理解する。 糖尿病の原因を理解する。 健常者の食事前後の血糖濃度・インスリン濃度のグラフから、血糖濃度とインスリン分泌の関係に気づき、説明できる。 健常者と糖尿病患者の食後の血糖濃度・インスリン濃度のグラフを比較し、糖尿病患者の血糖濃度が低下しない理由を考察し、説明できる。 糖尿病の原因を正しく理解したうえで、原因に応じた治療方法を考え、まとめることができる。 体内環境の維持のしくみに関心を持ち、主体的に学習に取り組める。 			○ ○	○ ○	○	
11	第3節 免疫のはたらき 1 からだを守るしくみ 2 自然免疫 3 適応免疫 4 免疫と健康 【期末考査】	<ul style="list-style-type: none"> 自然免疫・適応免疫のしくみと、それにはたららく細胞の役割を理解する。 免疫記憶のしくみを理解する。 免疫のはたらきが低下したり過敏になったりすることで起こる病気や、免疫のしくみを利用した医療について理解する。 同じ抗原が2回体内に侵入したときの抗体産生量のグラフから、抗体産生の速さや抗体量の違いについて、説明できる。 免疫の学習内容をもとに、未知の病原体に対する免疫のはたらきを考察し、自分の考えを述べることができる。 免疫のはたらきに関心を持ち、主体的に学習に取り組める。 			○ ○ ○	○ ○	○	
12	第4章 植生と遷移 第1節 植生と遷移 1 植生とその成り立ち 2 植生の遷移 3 植生の再生	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな植生とその特徴を理解する。 植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因について理解する。 遷移の過程を示した資料をもとに、遷移の過程で裸地から低木林に移り変わる要因、植生の樹種が交代する要因について考察し、説明できる。 長い年月をかけて進行する植生の遷移を調べるには、どんな方法が考えられるか、自分の考えをまとめることができる。 植生と遷移に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。 			○ ○	○ ○	○	
振り返り 反省					観点別評価の割合	知識・技能 40%	思考・判断・表現 30%	主体的に学習に取り組む態度 30%

教科名	理科	単位数	2	使用教材	教科書：数研出版 新編生物基礎 問題集：数研出版 新課程 新編生物基礎準拠 サポートノート			
科目名	生物基礎	対象年次	1年	授業の進め方	教科書を中心に学習し、学習プリントや問題集でまとめを行いながら進める。 教科書にある簡単な観察、実験内容を生徒実験や演示実験などによって確認する。			
学習目標	日常生活や社会との関連を回りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			学習方法 (留意点)	①予習：教科書に目を通し、記述内容を把握する。疑問や不明な点を整理する。 ②授業：授業時間が最も重要。授業中に完全に理解するつもりで、質問するなど、集中して授業に臨む。 ③復習：教科書やノートを見直し、問題集を解く。 ④考査前は、問題集や学習プリントを繰り返し解く。課題には必ず取り組む。			
評価の観点	知識・理解		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。		自然の事物・現象の中に問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。		自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。			
月	単元・学習項目	学習内容・ねらい			評価の観点	評価の方法		
					知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度			
1	第4章 植生と遷移 第2節 植生の分布とバイオーム 1 植生とバイオーム 2 世界のバイオーム 3 日本のバイオーム ＜実習＞暖かさの指数によるバイオームの推測	<ul style="list-style-type: none"> 世界および日本に見られるさまざまなバイオームが、気温と降水量の違いに起因して成立していることを理解する。 日本に分布するバイオームについて理解する。 実習「暖かさの指数によるバイオームの推測」を行い、日本の各地域でどのようなバイオームが成立する可能性があるかを推測する。 気温・降水量と陸上のおもなバイオームの関係を示した資料をもとに、森林・草原・高原のいずれになるかを定める要因に気づき、説明できる。 日本の気候の特徴をもとに、日本に分布するバイオームについて考察し、説明できる。 標高の高い場所で森林が見られない理由を考察し、説明できる。 植生の分布とバイオームに関心を持ち、主体的に学習に取り組める。 			○ ○ ○	○ ○ ○	○	授業態度 (出欠状況含) 定期考査 学習プリント 提出課題 発問評価 実験・観察 レポート
2	第3節 生態系と生物の多様性 1 生態系の成り立ち 2 生態系における種多様性 3 生態系における生物どうしのつながり 【学年末考査】	<ul style="list-style-type: none"> 生態系がどのように構成されているのかを理解する。 生態系において種多様性が維持される仕組みを理解する。 生態系における個体数の変化を調べた実験結果から、ある生物が種多様性に対して果たす役割を考察し、説明できる。 生態系と生物の多様背に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。 			○ ○	○	○	
3	第4節 生態系のバランスと保全 1 生態系のバランス 2 人間生活と生態系 3 生態系の保全	<ul style="list-style-type: none"> 生態系のバランスが保たれているとはどのような状態かを理解する。 生態系の保全のために、どのような活動が行われているかを理解する。 生活排水の流入による生物の個体数と水質の変化のグラフをもとに、自然浄化のしくみを考察し、説明できる。 外来生物の移入前後の在来魚の漁獲量の変化を示した資料をもとに、外来生物が在来魚に与えた影響を考察し、説明できる。 生態系への影響が予想される開発行為について、さまざまな観点・立場で考え、解決策を模索することができる。 生態系のバランスと保全に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。 			○ ○	○ ○ ○	○	
振り返り 反省	観点別評価の割合				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
					40%	30%	30%	

教科名	理科	単位数	2	使用教材	教科書：数研出版 新編化学基礎 問題集：数研出版 新課程新編化学基礎準拠ノートまとめと問題		
科目名	化学基礎	対象年次	2年理系	授業の進め方	教科書を中心に内容を理解しながら、例題や練習問題を解き、まとめを行いながら進める。 教科書にある観察、実験を実施し、対話することで基本的な概念や原理・法則を理解する。		
学習目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			学習方法 (留意点)	① 予習：教科書に目を通し、記述内容や実験例を把握しながら、疑問や不明な点を整理する。 ② 授業：授業時間が最も重要。授業中に完全に理解するつもりで、質問するなど、集中して授業に臨む。 ③ 復習：ノートや確認プリントを見直して学習内容を確認する。授業中に解けなかった例題、練習問題を解く。 ④ 基礎基本を固めるために、問題集のまとめで語句を確認し、ドリルや問題で演習を繰り返す。		
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	化学的な事象・現象についての観察、実験などを行うことを通して、化学の基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。		化学的な事象・現象を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈などの探究の方法を習得している。		化学的な事象・現象に対して、主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする。また、科学的に探究しようとする。		
月	単元・学習項目	学習内容・ねらい			評価の観点	評価の方法	
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
4	オリエンテーション 第1編 物質の構成と化学結合 第1章 物質の構成 1. 混合物と純物質 2. 物質とその成分 3. 物質の三態と熱運動		☐ 純物質と混合物が区別できる ☐ 単体と化合物の違いを説明できる ☐ 物質の三態と熱運動の関係を説明できる	☐	☐	学習プリント 発問評価 実験レポート 定期考査 授業態度 ポートフォリオ	
5	第2章 物質の構成粒子 1. 原子とその構造 2. イオン 3. 元素の周期表 第3章 粒子の結合 1. イオン結合とイオンからなる物質	中間考査	☐ 原子を構成する粒子と個数、質量の関係がわかる ☐ イオンの構造とその成り立ちがわかる ☐ 電子配置と周期表の関係がわかる ☐ イオン結合の特徴を説明できる	☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐		
6	2. 分子と共有結合 3. 共有結合の結晶 4. 金属結合と金属 第2編 物質の変化 第1章 物質と化学反応式 1. 原子量・分子量・式量 2. 物質質量 3. 溶液の濃度 4. 化学反応式と物質質量		☐ 分子のできかたと結合の特徴を説明できる ☐ 共有結合の特徴を説明できる ☐ 金属結合の特徴を説明できる ☐ 原子量の意味を理解し、分子量、式量を求められる ☐ 物質質量を使って物質の量を表すことができる ☐ モル濃度の意味がわかり、濃度を求めることができる ☐ 化学反応式の係数をつけることができる ☐ 化学反応式を用いて反応量を求めることができる	☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐		
7	第2章 酸と塩基の反応 1. 酸・塩基 2. 水の電離と水溶液のpH	期末考査	☐ 酸と塩基の定義、価数、強さについて説明できる ☐ pHの定義とその性質を説明できる	☐ ☐	☐ ☐		
振り返り 反省				観点別評価の割合	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
					96	96	96

教科名	理科	単位数	2	使用教材	教科書：数研出版 新編化学基礎 問題集：数研出版 新課程新編化学基礎準拠ノートまとめと問題		
科目名	化学基礎	対象年次	2年理系	授業の進め方	教科書を中心に内容を理解しながら、例題や練習問題を解き、まとめを行いながら進める。 教科書にある観察、実験を実施し、対話することで基本的な概念や原理・法則を理解する。		
学習目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			学習方法 (留意点)	① 予習：教科書に目を通し、記述内容や実験例を把握しながら、疑問や不明な点を整理する。 ② 授業：授業時間が最も重要。授業中に完全に理解するつもりで、質問するなど、集中して授業に臨む。 ③ 復習：ノートや確認プリントを見直して学習内容を確認する。授業中に解けなかった例題、練習問題を解く。 ④ 基礎基本を固めるために、問題集のまとめで語句を確認し、ドリルや問題で演習を繰り返す。		
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	化学的な事象・現象についての観察、実験などを行うことを通して、化学の基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。		化学的な事象・現象を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈などの探究の方法を習得している。		化学的な事象・現象に対して、主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする。また、科学的に探究しようとする。		
月	単元・学習項目		学習内容・ねらい		評価の観点 知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	評価の方法	
8	1学期の復習						
9	3. 中和反応と塩 4. 中和滴定 第3章 酸化還元反応 1. 酸化と還元 2. 酸化剤と還元剤 3. 金属の酸化還元反応 4. 酸化還元反応の利用		□中和反応とは何か説明できる □塩とは何か説明できる □酸化と還元を、酸化数から説明できる □酸化剤と還元剤の反応から、化学反応式をつくることができる □イオン化傾向をもとに、反応の有無を推定できる □電池が酸化還元を利用していることを説明できる				
10	中間考査 以降「化学」を実施					学習プリント 発問評価 実験レポート 定期考査 授業態度 ポートフォリオ	
11							
12							
振り返り 反省	観点別評価の割合				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
					%	%	%

教科名	理科	単位数	2	使用教材	高等学校 地学基礎 (第一学習社) 新課程版 ネオバルノート地学基礎 (第一学習社)			
科目名	地学基礎	対象年次	2年文系	授業の進め方	教科書を中心にして学習し、確認プリントや問題演習でまとめを行いながら進める。 教科書にある簡単な事物・現象等をICT機器を活用して確認する。			
学習目標	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、自ら課題を設定し、見通しをもって観察、実験などを行うことができる。科学的に探究する資質・能力を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的に探究しようとする態度を養う。			学習方法 (留意点)	①予習:教科書に目を通し、記述内容を把握する。疑問や不明な点を整理する。 ②授業:授業時間が最も重要。授業中に完全に理解するつもりで、質問するなど、集中して授業に臨む。 ③復習:教科書やノートを見直し、問題集を解く。 ④考査前は、問題集や確認プリントを繰り返し解く。課題には必ず取り組む。			
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	観察、実験などを通して地学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 地学的な事物・現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探究する方法を身に付けている。		地学的な事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行うとともに、事象を実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして、問題を解決し、事実にもとづいて科学的に判断したことを、言語活動を通じて表現する。		地学的な事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。			
月	単元・学習項目		学習内容・ねらい		評価の観点	評価の方法		
					知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
8	第3章 大気と海洋 第1節 地球のエネルギー収支 1. 大気の特徴① 2. 大気の特徴② 3. 対流圏における水の変化 4. 太陽放射と地球放射 5. 地球を出入りするエネルギー		<ul style="list-style-type: none"> 大気の組成や圧力を学習する。 高度の変化に伴う気温の変化と大気圏区分の関係を学習し、大気圏の構造を理解する。 大気中の水の変化について学習し、雲の発生と降水のしくみについて理解する。 太陽放射と地球放射について学習する。 地球のエネルギー収支や、温室効果や放射冷却について学習する。 		○	○	○	
9	第2節 大気と海水の運動 1. エネルギー収支の緯度分布 2. 風 3. 大気の大循環① 4. 大気の大循環② 5. 海洋の構造 6. 海洋の大循環 7. エルニーニョ現象とラニーニャ現象		<ul style="list-style-type: none"> 緯度ごとのエネルギー収支を学習し、南北の熱の輸送について理解する。 風がおこるしくみについて理解する。 低緯度地域の大気の大循環について理解する。 中緯度・高緯度地域の大気の大循環について理解する。 海水の塩分と温度について学習し、海洋の層構造を理解する。 海洋の表層の循環と深層に及ぶ循環について学習する。 エルニーニョ現象とラニーニャ現象について学習する。 		○	○	○	
10	【中間考査】 第4章 宇宙と地球 第1節 宇宙と太陽の誕生 1. 宇宙の探求 2. 宇宙の始まり① 3. 宇宙の始まり② 4. 太陽の誕生 5. 太陽の活動		<ul style="list-style-type: none"> 宇宙の探究についての歴史を学習する。 ビッグバンや元素の誕生について学習し、宇宙の始まりを理解する。 恒星や銀河について学習し、銀河系の構造を理解する。 太陽の誕生について学習し、現在の太陽の特徴を理解する。 現在の太陽の表面や外層でおこっている活動について学習する。 		○	○	○	
11	第2節 太陽系と地球の誕生 1. 太陽系の構造 2. 太陽系の誕生① 3. 太陽系の誕生② 4. 太陽系の惑星 5. 生命の惑星・地球		<ul style="list-style-type: none"> 太陽系を構成する天体について学習する。 太陽系、地球型惑星、木星型惑星の誕生過程について学習する。 太陽系の小天体について、形成過程や起源物質などの特徴を学習する。 地球型惑星と木星型惑星の環境や特徴について学習し、違いを理解する。 生命が存在する条件について学習し、地球だけに生命が誕生した理由を理解する。 原始地球の進化の過程について学習し、原始地球の環境変化を理解する。 		○	○	○	
12	【期末考査】 第5章 生物の変遷と地球環境 第1節 地層と化石 1. 地層の形成 2. 地層の重なりと広がり 3. 堆積岩		<ul style="list-style-type: none"> 河川の働きと地層の形成を学習して、地層の重なりやかき層による地層の対比について理解し、知識として身に付けている。 露頭の写真から、不整合面を確認することができる。 堆積岩の観察では、堆積物の種類などによって堆積岩を分類できる。 		○	○	○	
振り返り 反省					観点別評価の割合	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
						%	%	%

教科名	理科	単位数	2	使用教材	高等学校 地学基礎 (第一学習社) 新課程版 ネオバルノート地学基礎 (第一学習社)			
科目名	地学基礎	対象年次	2年文系	授業の進め方	教科書を中心にして学習し、確認プリントや問題演習でまとめを行いながら進める。 教科書にある簡単な事柄・現象等をICT機器を活用して確認する。			
学習目標	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、自ら課題を設定し、見通しをもって観察、実験などを行うことができる。科学的に探究する資質・能力を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的に探究しようとする態度を養う。			学習方法 (留意点)	①予習:教科書に目を通し、記述内容を把握する。疑問や不明な点を整理する。 ②授業:授業時間が最も重要。授業中に完全に理解するつもりで、質問するなど、集中して授業に臨む。 ③復習:教科書やノートを見直し、問題を解く。 ④考査前は、問題集や確認プリントを繰り返し解く。課題には必ず取り組む。			
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	観察、実験などを通して地学的な事柄・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 地学的な事柄・現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探究する方法を身に付けている。		地学的な事柄・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行うとともに、事象を実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして、問題を解決し、事実にもとづいて科学的に判断したことを、言語活動を通じて表現する。		地学的な事柄・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。			
月	単元・学習項目		学習内容・ねらい		評価の観点	評価の方法		
					知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	第5章 生物の変遷と地球環境 第1節 地層と化石 4. 化石と地質時代① 5. 化石と地質時代② 第2節 地球と生物の変遷 1. 先カンブリア時代① 2. 先カンブリア時代② 3. 古生代① 4. 古生代② 5. 中生代 6. 新生代① 7. 新生代②		・化石のでき方、有効な示相化石と示準化石の特徴、相対年代と数値年代の違いを学習する。 ・地質時代の区分について学習する。 ・冥王代～太古代の地球環境と生物の変遷を学習し、初期の地球の環境や生物の出現について理解する。 ・原生代の地球環境と生物の変遷を学習し、大気の変化が地球環境や生命活動へ与えた影響を理解する。 ・カンブリア紀～デボン紀の地球環境と生物の変遷を学習し、生物の陸上進出に必要な環境を理解する。 ・石炭紀～ペルム紀の地球環境と生物の変遷を学習し、大気の変化が地球の環境に与えた影響を理解する。 ・中生代の地球環境と生物の変遷を学習する。 ・古第三紀～新第三紀の地球環境と生物の変遷や、人類の出現について学習する。 ・第四紀の地球環境と生物の変遷や、人類の進化について学習する。		○	○	○	授業態度(出欠状況含) 定期考査 小テスト、学習プリント 提出課題 ポートフォリオ 発問評価
2	第6章 地球の環境 第1節 地球環境の科学 1. 気候変動 2. 地球温暖化による変化 3. オゾン層の破壊 【学年末考査】		・地球の気候変動や地球温暖化について学習し、地球温暖化による地球環境の変化や、人間生活との関わりを理解する。 ・オゾン層の変化について学習し、オゾンホール形成と人間生活との関わりを理解する。		○	○	○	
3	第6章 地球の環境 第2節 日本の自然環境 1. 自然の恩恵 2. 季節の変化 3. 気象災害① 4. 気象災害② 5. 地震災害 6. 地震による被害の軽減 7. 火山災害と防災		・日本における自然の恩恵について学習し、日本の資源について理解する。 ・日本付近の気団や四季の天気の特徴を学習する。 ・日本で発生する気象災害について学習する。 ・土砂災害の発生形態による区分を学習する。 ・日本の気象災害への対策について学習する。 ・日本の地震災害とその対策について学習する。 ・液状化や津波の発生メカニズムについて学習する。 ・日本の火山災害とその対策について学習する。		○	○	○	
振り返り 反省					観点別評価の割合	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
						%	%	%

教科名	外国語	単位数	3	使用教材	数研出版 BIG DIPPER English Communication 数研出版 BIG DIPPER English Communication ワークブック			
科目名	英語コミュニケーション I	対象年次	1	授業の進め方	予習で単語の意味を調べ、本文の意味を考える。 授業で本文の内容を理解し、文法事項を押さえる。			
学習目標	日常的・社会的な話題について、概要や要点を目的に応じて捉えたとともに、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話したり文章にしたりして伝えることができる。			学習方法 (留意点)	予習: 新出単語の意味を辞書で調べ、本文の内容を理解しようとする。 授業: 予習がしてあること前提に、本文の内容や文法事項を確認する。 復習: 本文の内容を復習し、単語の意味や文法を覚え、既習事項を書いたり話したりして使ってみる。			
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	本文で扱われる英語の構文や文法を理解し、概要や要点を捉えることができる。		英語の構文や既習の文法を用いて、与えられたテーマに基づき、自分の考えや気持ちを英語で伝えている。		英語の構文や既習の文法を用いて、与えられたテーマに基づき、自分の考えや気持ちを英語で伝えようとしている。			
月	単元・学習項目		学習内容・ねらい		評価の観点	評価の方法		
					知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	Lesson1: Have a Good Day with a Good Breakfast 題材: 朝食の大切さ、理想的な朝食 ジャンル: 健康、学校生活 ・過去形、現在形、未来を表す表現、現在完了、現在進行形、命令文		<ul style="list-style-type: none"> 各パートの本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 本文の内容(昼食の重要性など)について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり、書くことができる。 本文に関連したテーマ(バランスの良い朝食)について聞き取ることができ、その内容について話し合い、書き、発表することができる。 本文で扱った文法事項を理解し、それを用いて正しい文章が書ける。 		○	○	○	学習プリント 言語活動 定期考査
5	Lesson2: A Mascot with a Mission 題材: 町おこしのキャラクターの役割 ジャンル: 社会、日本文化 ・SVC、SVO、to不定詞、動名詞 Grammar for Expression 1 【中間考査】		<ul style="list-style-type: none"> 各パートの本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 本文の内容(ご当地マスコットの役割)について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり、書くことができる。 本文に関連したテーマ(日本のマスコット文化、鳥獣戯画)について聞き取ることができ、その内容について話し合い、書き、発表することができる。 本文で扱った文法事項を理解し、それを用いて正しい文章が書ける。 		○	○	○	学習プリント 言語活動 定期考査
6	Lesson3: Two kinds of Leadership 題材: 2つのタイプのリーダーシップ ジャンル: 心理、社会 ・受動態、関係代名詞、SV00、SVOC 【期末考査】		<ul style="list-style-type: none"> 各パートの本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 本文の内容(2種類のリーダーシップなど)について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり、書くことができる。 本文に関連したテーマ(学級委員長になったらやりたいこと)について聞き取ることができ、その内容について話し合い、書き、発表することができる。 本文で扱った文法事項を理解し、それを用いて正しい文章が書ける。 		○	○	○	学習プリント 言語活動 定期考査
7	Lesson4: Older Sports and Newer Sports 題材: 新旧いろいろなスポーツの歴史と魅力 ジャンル: スポーツ、歴史 ・最上級、比較級、原級 Grammar for Expression 2		<ul style="list-style-type: none"> 各パートの本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 本文の内容(自分の好きなスポーツなど)について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり、書くことができる。 本文に関連したテーマ(eスポーツ)について聞き取ることができ、その内容について話し合い、書き、発表することができる。 本文で扱った文法事項を理解し、それを用いて正しい文章が書ける。 		○	○	○	学習プリント 言語活動 定期考査
振り返り 反省					観点別評価の割合	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
						40%	30%	30%

教科名	外国語	単位数	3	使用教材	数研出版 BIG DIPPER English Communication I 数研出版 BIG DIPPER English Communication I ワークブック				
科目名	英語コミュニケーション I	対象年次	1	授業の進め方	予習で単語の意味を調べ、本文の意味を考える。 授業で本文の内容を理解し、文法事項を押さえる。				
学習目標	日常的・社会的な話題について、概要や要点を目的に応じて捉えたとともに、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話したり文章にしたりして伝えることができる。			学習方法 (留意点)	予習: 新出単語の意味を辞書で調べ、本文の内容を理解しようとする。 授業: 予習がしてあること前提に、本文の内容や文法事項を確認する。 復習: 本文の内容を復習し、単語の意味や文法を覚え、既習事項を書いたり話したりして試してみる。				
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				
	本文で扱われる英語の構文や文法を理解し、概要や要点を捉えることができる。		英語の構文や既習の文法を用いて、与えられたテーマに基づき、自分の考えや気持ちを英語で伝えている。		英語の構文や既習の文法を用いて、与えられたテーマに基づき、自分の考えや気持ちを英語で伝えようとしている。				
月	単元・学習項目		学習内容・ねらい		評価の観点 知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度				
8	Lesson4: Older Sports and Newer Sports 題材: 新旧いろいろなスポーツの歴史と魅力 ジャンル: スポーツ、歴史 ・最上級、比較級、原級		<ul style="list-style-type: none"> 各パートの本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 本文の内容(AIやAIによる芸術など)について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり、書くことができる。 本文に関連したテーマ(AIによる芸術)について聞き取ることができ、その内容について話し合い、書き、発表することができる。 本文で扱った文法事項を理解し、それを用いて正しい文章が書ける。 		○	○	○	学習プリント 言語活動 定期考査	
9	Lesson5: AI Meets the Arts 題材: 芸術の世界にまで進出するAI[人工知能] ジャンル: 科学技術、芸術 ・名詞を修飾する分詞、形式主語								
【中間考査】									
10	Lesson6: What is Happiness? 題材: 世界の人々の「幸福度」の違い ジャンル: 異文化理解、心理 ・過去完了、関係副詞 Grammar for Expression 3		<ul style="list-style-type: none"> 各パートの本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 本文の内容(日本と世界の幸福度)について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり、書くことができる。 本文に関連したテーマ(幸せを感じる方法)について聞き取ることができ、その内容について話し合い、書き、発表することができる。 本文で扱った文法事項を理解し、それを用いて正しい文章が書ける。 		○	○	○	学習プリント 言語活動 定期考査	
11	Lesson7: The Maldives: A Dream Destination? 題材: 人気の観光地が抱える問題 ジャンル: 環境、経済 ・SV(知覚動詞)OC、SVO+to~ 【期末考査】		<ul style="list-style-type: none"> 各パートの本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 本文の内容(人気の観光地が抱える問題)について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり、書くことができる。 本文に関連したテーマ(観光公害)について聞き取ることができ、その内容について話し合い、書き、発表することができる。 本文で扱った文法事項を理解し、それを用いて正しい文章が書ける。 		○	○	○	学習プリント 言語活動 定期考査	
12	Lesson8: Kazu Hiro: In Pursuit of a Dream 題材: 世界的な特殊メイクアップアーティスト Kazu Hiro ジャンル: 人物、文化 ・関係副詞、関係代名詞、強調構文(It is ~that...) Grammar for Expression 4		<ul style="list-style-type: none"> 各パートの本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 本文の内容(Kazu Hiroの書いた手紙や仕事、将来の夢など)について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり、書くことができる。 本文に関連したテーマ(名言)について聞き取ることができ、その内容について話し合い、書き、発表することができる。 本文で扱った文法事項を理解し、それを用いて正しい文章が書ける。 		○	○	○	学習プリント 言語活動 定期考査	
振り返り 反省					観点別評価の割合	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
						40%	30%	30%	

教科名	外国語	単位数	3	使用教材	数研出版 BIG DIPPER English Communication I 数研出版 BIG DIPPER English Communication I ワークブック				
科目名	英語コミュニケーション I	対象年次	1	授業の進め方	予習で単語の意味を調べ、本文の意味を考える。 授業で本文の内容を理解し、文法事項を押さえる。				
学習目標	日常的・社会的な話題について、概要や要点を目的に応じて捉えるとともに、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話したり文章にしたりして伝えることができる。			学習方法 (留意点)	予習: 新出単語の意味を辞書で調べ、本文の内容を理解しようとする。 授業: 予習がしてあること前提に、本文の内容や文法事項を確認する。 復習: 本文の内容を復習し、単語の意味や文法を覚え、既習事項を書いたり話したりして使ってみる。				
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				
	本文で扱われる英語の構文や文法を理解し、概要や要点を捉えることができる。		英語の構文や既習の文法を用いて、与えられたテーマに基づき、自分の考えや気持ちを英語で伝えている。		英語の構文や既習の文法を用いて、与えられたテーマに基づき、自分の考えや気持ちを英語で伝えようとしている。				
月	単元・学習項目	学習内容・ねらい			評価の観点				
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評価の方法			
1	Lesson9: From Recycle to Upcycle 題材: ゴミの再利用の新しい形「アップサイクル」 ジャンル: 環境、生活 ・分詞構文、間接疑問文、現在完了進行形	<ul style="list-style-type: none"> 各パートの本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 本文の内容(モットイナイ精神やアップサイクル商品など)について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり、書くことができる。 本文に関連したテーマ(ゴミを減らすための工夫)について聞き取ることができる。 その内容について話し合い、書き、発表することができる。 本文で扱った文法事項を理解し、それを用いて正しい文章が書ける。 			○	○	○	学習プリント 言語活動 定期考査	
2	Lesson10: Diversity at Japanese Companies 題材: 日本の会社における雇用の多様性 ジャンル: 平等、労働 ・仮定法過去、分詞構文、過去の習慣、助動詞 Grammar for Expression 5 学年末考査	<ul style="list-style-type: none"> 各パートの本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 本文の内容(日本企業の雇用や、働きかたなど)について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり、書くことができる。 本文に関連したテーマ(女性の就業状況)について聞き取ることができ、その内容について話し合い、書き、発表することができる。 本文で扱った文法事項を理解し、それを用いて正しい文章が書ける。 			○	○	○	学習プリント 言語活動 定期考査	
3	Power Up Section (Lesson 1 ~ 10)	各Lessonの内容について、より知識を深めることができる。			○	○	○	学習プリント 言語活動 定期考査	
振り返り 反省					観点別評価の割合		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
							40%	30%	30%

教科名	保健体育	単位数	3	使用教材	教科書：大修館書店 現代高等保健体育 副教材：大修館書店 ステップアップ 高校スポーツ 2024			
科目名	体育	対象年次	1年	授業の進め方	教科書に沿って各種運動のルールと安全性について学び、実践を通して技能を身につける。			
学習目標	各種の運動の合理的な実践を通して、個人の能力・技能に応じた課題を定め解決することにより、運動の楽しさや喜びを感じさせる。また、運動技能を高めることができるようにし、生活を明るく健全にする態度を育てる。集団行動を通して、集団の約束事・決まり事を守れるように指導する。			学習方法 (留意点)	・体育服、シューズ(内・外)の準備をすること			
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。		生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。		運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。			
月	単元・学習項目		学習内容・ねらい		評価の観点 知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	評価の方法		
4	<体づくり運動> ・体ほぐしの運動 ・実生活に生かす運動の計画 <ダンス> ・フォークダンス 日本の民謡(こきりこ)		☐ 集団行動の行動様式を実践することができる ☐ 集団の約束、決まりを守って行動する ☐ 仲間と積極的に交流を図っている ☐ 意識的に体を大きく動かすことができる ☐ 音楽に合わせて振付をすることができる ☐ 感情を込めた繊細な踊りをする ☐ 動きの修正や確認ができる		○	○	○	授業態度(出席状況含む) 技能テスト 学習プリント 定期考査
5	<陸上競技> ・短距離走 ・長距離走		☐ 自己の体力・能力を最大限に発揮できる ☐ 各区間の技術が向上している ☐ 記録を客観的に置き換えることができる ☐ 一定のペースを保つことができる		○	○	○	
6	<球技> ・サッカー ・バレーボール		☐ 個人技能を修得することができる ☐ 準備後片付けなど、積極的に取り組んでいる ☐ 集団技能を理解し、説明することができる ☐ 味方の位置を把握し、プレーすることができる ☐ 自分の役割を理解し、説明・行動できる ☐ 審判を行うことができる ☐ ルールを理解している ☐ チームで協力して活動している ☐ 審判、副審、線審をすることができる		○	○	○	
7	<体育理論(スポーツの発祥と発展)> ・スポーツの始まりと変遷 ・文化としてのスポーツ ・オリンピックとパラリンピックの意義		【期末考査】 ☐ スポーツの始まりについて説明できる ☐ スポーツへの多様なかわり方を説明できる ☐ オリンピックとパラリンピックの意義を説明できる		○	○	○	授業態度(出席状況含む) 学習プリント 発問評価 定期考査
振り返り 反省					観点別評価の割合	知識・技能 30%	思考・判断・表現 30%	主体的に学習に取り組む態度 40%

教科名	保健体育	単位数	3	使用教材	教科書：大修館書店 現代高等保健体育 副教材：大修館書店 ストップアップ 高校スポーツ 2024				
科目名	体育	対象年次	1年	授業の進め方	教科書に沿って各種運動のルールと安全性について学び、実践を通して技能を身につける。				
学習目標	各種の運動の合理的な実践を通して、個人の能力・技能に応じた課題を定め解決することにより、運動の楽しさや喜びを感じさせる。また、運動技能を高めることができるようにし、生活を明るく健全にする態度を育てる。集団行動を通して、集団の約束事・決まり事を守るように指導する。			学習方法 (留意点)	・体育服、シューズ(内・外)の準備をすること				
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				
	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。		生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。		運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。				
月	単元・学習項目		学習内容・ねらい		評価の観点	評価の方法			
					知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
8	<球技> ・サッカー ・バレーボール		☐ 集団技能を理解し、説明することができる ☐ 味方の位置を把握し、プレーすることができる ☐ 自分の役割を理解し、説明・行動できる ☐ 審判を行うことができる ☐ ルールを理解している ☐ チームで協力して活動している ☐ 安全に課題に取り組むことができる		○	○	○		
9					○	○	○		
10	<器械運動> ・マット運動 ・跳び箱		☐ 準備運動をしっかりと行うことができる ☐ 自分の能力に適した課題を選択することができる ☐ 段階的に練習することができる ☐ 回転系の技でつま先、膝を伸ばして行える ☐ 形を崩さず技を行える ☐ 安全に課題に取り組むことができる ☐ 仲間と協力して、技能の向上に努めている ☐ 準備片付けなど、積極的に取り組んでいる ☐ 補助などを行えている		○	○	○	授業態度(出席状況含む) 技能テスト 定期考査	
11	<球技> ・バスケットボール		☐ 個人技能を修得することができる ☐ 味方の位置を把握して、プレーできる ☐ ゲームにおいて自分の役割を把握し、説明できる ☐ 個人プレーではなく、集団プレーを行っている ☐ 声掛けを行えている ☐ 準備片付けなど、積極的に取り組んでいる ☐ 安全に課題に取り組むことができる ☐ ルールを理解している		○	○	○		
12	<体育理論(スポーツの発祥と発展)> ・スポーツが経済に及ぼす効果 ・スポーツの高深さとドーピング ・スポーツと環境		☐ スポーツの経済的価値について説明できる ☐ フェアプレイ、スポーツ精神を説明できる ☐ スポーツと環境問題の関係を説明できる		○	○	○	授業態度(出席状況含む) 学習プリント 発問評価 定期考査	
振り返り 反省					観点別評価の割合		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
							30%	30	40%

教科名	保健体育	単位数	3	使用教材	教科書：大修館書店 現代高等保健体育 副教材：大修館書店 ストップアップ 高校スポーツ 2024				
科目名	体育	対象年次	1年	授業の進め方	教科書に沿って各種運動のルールと安全性について学び、実践を通して技能を身につける。				
学習目標	各種の運動の合理的な実践を通して、個人の能力・技能に応じた課題を定め解決することにより、運動の楽しさや喜びを感じさせる。また、運動技能を高めることができるようにし、生活を明るく健全にする態度を育てる。集団行動を通して、集団の約束事・決まり事を守るように指導する。			学習方法 (留意点)	・体育服、シューズ(内・外)の準備をすること				
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				
	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。		生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。		運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。				
月	単元・学習項目		学習内容・ねらい		評価の観点 知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	評価の方法			
1	<体づくり運動> ・体ほぐしの運動 ・実生活に生かす運動の計画		☐ スピーディー・ハワフルに動けている ☐ 巧みに動けている ☐ 自己の心や体の状態に気づいているか ☐ 体の調子を整えている ☐ 仲間との交流を豊かにしている ☐ 動きを持続している		○	○	○	授業態度(出席状況含む) 技能テスト 定期考査	
2	<球技> ・バスケットボール ・バドミントン 【学年末考査】		☐ 味方の位置を把握して、プレーできる ☐ 安全に課題に取り組むことができる ☐ 個人プレーではなく、集団プレーを行っている ☐ 準備片付けなど、積極的に取り組んでいる ☐ 個人的技能を修得することができる ☐ 安全に課題に取り組むことができる ☐ ルールを理解している ☐ 自分の役割を理解し、説明することができる ☐ 準備片付けなど、積極的に取り組んでいる		○	○	○		
3	<歩くスキー(クロスカンтриー)> ・用具のつけ方 (スキーブーツ、スキー板、ストック) ・基本動作 (転び方、歩き方、体重移動)		☐ 用具を正しく身につけられる ☐ 用具の片付け方を理解している ☐ 正しい構えをとることができる ☐ 基本動作を正確に行える ☐ スムーズに体重移動を行える ☐ 安全に留意して、行うことができる		○	○	○		
振り返り 反省					観点別評価の割合		知識・技能 30%	思考・判断・表現 30%	主体的に学習に取り組む態度 40%

教科名	保健体育	単位数	1	使用教材	教科書：大修館書店 現代高等保健体育 副教材：大修館書店 図説 現代高等保健				
科目名	保健	対象年次	1年	授業の進め方	教科書を中心に実施する。				
学習目標	個人及び社会生活における健康・安全に関する理解を深めて、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を身につけさせる。 また、喫煙・飲酒等に興味を示す高校一年次に、正しい知識を身につけさせ、健康の保持増進に努めるように指導する。			学習方法 (留意点)	①予習：教科書を読んでおく。 ②復習：ノートを自分なりにまとめる。				
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				
	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。		健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。		生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力あるの生活を営む態度を養う。				
月	単元・学習項目	学習内容・ねらい			評価の観点 知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	評価の方法			
4	1単元 現代社会と健康 ①健康の考え方と成り立ち ②私たちの健康のすがた ③生活習慣病の予防と回復	☐ さまざまな健康の考え方について例をあげて説明できる ☐ 健康を成り立たせている要因について例をあげて説明できる ☐ わが国の健康水準の変化とその背景について説明できる ☐ わが国の現在の健康問題について例をあげて説明できる ☐ 生活習慣病の種類と要因について説明できる ☐ 生活習慣病の一次予防と二次予防について説明できる			○	○	○	授業態度(出欠状況含) 定期考査 小テスト、学習プリント 提出課題 ポートフォリオ 発問評価 レポート	
5	④がんの原因と予防 ⑤がんの治療と回復 ⑥運動と健康 ⑦食事と健康	☐ がんの種類や原因について説明できる ☐ がんの一次予防と二次予防について説明できる ☐ がんのおもな治療法や緩和ケアについて説明できる ☐ がんに関する社会的な対策について説明できる ☐ 健康と運動の関係を説明できる ☐ 目的に応じた健康的な運動のしかたについて説明できる ☐ 食事と健康の関係について説明できる ☐ 健康的な食事のとり方について説明できる			○	○	○		
6	⑧休養・睡眠と健康 ⑨喫煙と健康 ⑩飲酒と健康 ⑪薬物乱用と健康 【期末考査】	☐ 健康と休養の関係、適切な休養のとり方について説明できる ☐ 健康と睡眠の関係、健康により睡眠のとり方について説明できる ☐ 喫煙者やその周囲の人に起こる害について説明できる ☐ 喫煙対策について、個人と社会に分けて例をあげて説明できる ☐ 飲酒による健康への短期的影響と長期的影響を説明できる ☐ 飲酒の対策について、例をあげて説明できる ☐ 薬物乱用の様々な影響について説明できる ☐ 個人や社会環境への対策例をあげることができる			○	○	○		
7	⑫精神疾患の特徴 ⑬精神疾患の予防 ⑭精神疾患からの回復	☐ 精神疾患の発病の要因とおもな症状について説明できる ☐ 現代社会における精神保健の課題をあげることができる ☐ 精神疾患を予防する方法について説明できる ☐ 精神疾患の早期発見のために必要なことについて説明できる ☐ 精神疾患の治療について例をあげて説明できる ☐ 治療や回復には、どのような社会環境が必要か説明できる			○	○	○		
振り返り 反省	観点別評価の割合				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
					35%	35%	30%		

教科名	保健体育	単位数	1	使用教材	教科書：大修館書店 現代高等保健体育 副教材：大修館書店 図説 現代高等保健			
科目名	保健	対象年次	1年	授業の進め方	教科書を中心に実施する。			
学習目標	個人及び社会生活における健康・安全に関する理解を深めて、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を身につけさせる。 また、喫煙・飲酒等に興味を示す高校一年次に、正しい知識を身につけさせ、健康の保持増進に努めるように指導する。			学習方法 (留意点)	①予習：教科書を読んでおく。 ②復習：ノートを自分なりにまとめる。			
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。		健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。		生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力あるの生活を営む態度を養う。			
月	単元・学習項目	学習内容・ねらい			評価の観点	評価の方法		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
8	⑮現代の感染症	☐ 感染症とは何かについて説明できる ☐ 新興感染症と再興感染症が流行する要因を説明できる						
9	⑯感染症の予防	☐ 感染症の予防対策について3原則から例をあげて説明できる ☐ 感染症への個人と社会の対策について例をあげて説明できる			○	○		
10	⑰性感染症・エイズとその予防 ⑱健康に関する意思決定・行動選択	☐ 性感染症・エイズが他の感染症と異なる点について説明できる ☐ 予防と対策を個人と社会に分けて、例をあげることができる ☐ 意思決定・行動選択に影響を与える要因について説明できる ☐ 適切な意思決定・行動選択の際の工夫について説明できる			○	○		
11	⑲健康に関する環境づくり 2単元 安全な社会生活 ①事故の現状と発生要因 【期末考査】	☐ 社会環境の健康への影響について例をあげて説明できる ☐ ヘルスポモーションの考え方にもとづく環境づくりの特徴について説明できる ☐ 事故の実態と被害の実態について説明できる ☐ 事故には様々な要因が関連していることについて説明できる			○	○		
12	②安全な社会の形成	☐ 安全のために必要な個人の行動について説明できる ☐ 安全を確保するために必要な環境整備について説明できる			○	○		
振り返り 反省					観点別評価の割合	知識・技能 35%	思考・判断・表現 35%	主体的に学習に取り組む態度 30%

教科名	保健体育	単位数	3	使用教材	教科書：大修館書店 現代高等保健体育 副教材：大修館書店 ストップアップ 高校スポーツ 2023					
科目名	体育	対象年次	2年	授業の進め方	教科書に沿って各種運動のルールと安全性について学び、実践を通して技能を身につける。					
学習目標	各種の運動の合理的な実践を通して、個人の能力・技能に応じた課題を定め解決することにより、運動の楽しさや喜びを感じさせる。また、運動技能を高めることができるようにし、生活を明るく健全にする態度を育てる。集団行動を通して、集団の約束事・決まり事を守れるように指導する。			学習方法 (留意点)	・体育服、シューズ(内・外)の準備をすること					
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度					
	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。		生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。		運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の運いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。					
月	単元・学習項目		学習内容・ねらい		評価の観点 知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	評価の方法				
4	<体づくり運動> ・体ほぐしの運動 ・実生活に生かす運動の計画 <ダンス> ・フォークダンス 日本の民謡(こきりこ)		☐ 集団行動の行動様式を実践することができる ☐ 集団の約束、決まりを守って行動する ☐ 自己の心や体の状態にきづいている ☐ 体の調子を整えている ☐ 仲間との交流を豊かにしている ☐ 動きを継続している ☐ 曲調に合わせて感情を込めて踊ることができる ☐ ささらをうまく使うことができる ☐ 振付に動と静のメリハリをつけることができる		○	○	○	授業態度(出席状況含む) 技能テスト 学習プリント 定期考査		
5	<陸上競技> ・短距離走 ・長距離走		☐ 一定のペースを保つことができる ☐ 自己の体力・能力を最大限に発揮できる ☐ 各区間の技術が向上している ☐ 記録を客観的に置き換えることができる		○	○	○			
6	<球技> ・サッカー ・バレーボール		☐ 審判を行うことができる ☐ 個人技能を修得することができる ☐ 集団技能を理解し、説明することができる ☐ 味方の位置を把握し、プレーすることができる ☐ 自分の役割を理解し、説明・行動できる ☐ 協働・協力して活動することができる ☐ ルールを理解している ☐ 準備後片付けなど、積極的に取り組んでいる		○	○	○			
7	<体育理論(運動・スポーツの学び方)> ・スポーツにおける技能と体力 ・スポーツにおける技術と戦術 ・技能の上達過程と練習		☐ 技能と体力の関係について説明できる ☐ メディアの発達による技術や戦術の変化を説明できる ☐ 技能の上達にはどのような過程があるか説明できる		○	○	○	授業態度(出席状況含む) 学習プリント 発問評価 定期考査		
振り返り 反省					観点別評価の割合	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
							30%	30%	40%	

教科名	保健体育	単位数	3	使用教材	教科書：大修館書店 現代高等保健体育 副教材：大修館書店 ストップアッパ 高校球 2023				
科目名	体育	対象年次	2年	授業の進め方	教科書に沿って各種運動のルールと安全性について学び、実践を通して技能を身につける。				
学習目標	各種の運動の合理的な実践を通して、個人の能力・技能に応じた課題を定め解決することにより、運動の楽しさや喜びを感じさせる。また、運動技能を高めることができるようにし、生活を明るく健全にする態度を育てる。集団行動を通して、集団の約束事・決まり事を守れるように指導する。			学習方法 (留意点)	・体育服、シューズ(内・外)の準備をすること				
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				
	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。		生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。		運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。				
月	単元・学習項目		学習内容・ねらい		評価の観点	評価の方法			
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
8	<球技> ・サッカー ・バレーボール		☐ 集団技能を理解し、説明することができる ☐ 味方の位置を把握し、プレーすることができる ☐ 自分の役割を理解し、説明・行動できる ☐ 空いている場所を埋めるなど、空間への侵入から攻防ができる ☐ 協働・協力して活動することができる ☐ ルールを理解している ☐ 準備後片付けなど、積極的に取り組んでいる ☐ 審判を行うことができる		○	○	○	授業態度(出席状況含む) 技能テスト 学習プリント 定期考査	
9									
10	<器械運動> ・マット運動、跳び箱		☐ 準備運動をしっかり行うことができる ☐ 自分の能力に適した課題を選択することができる ☐ 段階的に練習することができる ☐ 回転系の技でつま先、膝を伸ばして行える ☐ 形を崩さず技を行える ☐ 安全に課題に取り組むことができる ☐ 仲間と協力して、技能の向上に努めている ☐ 準備片付けなど、積極的に取り組んでいる ☐ 補助などを行えている		○	○	○		
11	<球技> ・バスケットボール		☐ 個人技能を修得することができる ☐ 味方の位置を把握して、プレーできる ☐ ゲームにおいて自分の役割を把握し、説明できる ☐ 個人プレーではなく、集団プレーを行っている ☐ 声掛けを行えている ☐ 準備片付けなど、積極的に取り組んでいる ☐ 安全に課題に取り組むことができる ☐ ルールを理解している		○	○	○		
			【期末考査】						
12	<体育理論(運動・スポーツの学びかた)> ・効果的な動きのメカニズム ・体カトレーニング ・運動やスポーツでの安全の確保		☐ 体の動きはどのような仕組みで開始され、持続していくのか説明できる ☐ 目的に応じたさまざまなトレーニング方法について説明できる ☐ スポーツ活動中に起こる事故の発生要因と予防方法について説明できる		○	○	○	授業態度(出席状況含む) 学習プリント 発問評価 定期考査	
振り返り 反省					観点別評価の割合		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
							30%	30%	40%

教科名	保健体育	単位数	3	使用教材	教科書：大修館書店 現代高等保健体育 副教材：大修館書店 ストップアップ 高校スポーツ 2023				
科目名	体育	対象年次	2年	授業の進め方	教科書に沿って各種運動のルールと安全性について学び、実践を通して技能を身につける。				
学習目標	各種の運動の合理的な実践を通して、個人の能力・技能に応じた課題を定め解決することにより、運動の楽しさや喜びを感じさせる。また、運動技能を高めることができるようにし、生活を明るく健全にする態度を育てる。集団行動を通して、集団の約束事・決まり事を守るように指導する。			学習方法 (留意点)	・体育服、シューズ(内・外)の準備をすること				
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				
	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。		生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。		運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。				
月	単元・学習項目		学習内容・ねらい		評価の観点	評価の方法			
					知識・技能		主体的に学習に取り組む態度		
1	<体づくり運動> ・体ほぐしの運動 ・実生活に生かす運動の計画		☐ スピーディー・バワフルに動けている ☐ 巧みに動けている ☐ 自己の心や体の状態に気づいているか ☐ 体の調子を整えている ☐ 仲間との交流を豊かにしている ☐ 動きを継続している		○	○	○	授業態度(出席状況含む) 技能テスト 学習プリント 定期考査	
2	<球技> ・バスケットボール ・バドミントン 【学年末考査】		☐ 味方の位置を把握して、プレーできる ☐ 安全に課題に取り組むことができる ☐ 個人プレーではなく、集団プレーを行っている ☐ 個人的技能を修得することができる ☐ 安全に課題に取り組むことができる ☐ 自分の役割を理解し、説明することができる ☐ 準備片付けなど、積極的に取り組んでいる ☐ ルールを理解している		○	○	○		
3	<歩くスキー(クロスカントリー)> ・用具のつけ方 (スキーブーツ、スキー板、ストック) ・基本動作 (転び方、歩き方、体重移動)		☐ 用具を正しく身につけられる ☐ 用具の片付け方を理解している ☐ 正しい構えをとることができる ☐ 基本動作を正確に行える ☐ スムーズに体重移動を行える ☐ 安全に留意して、行うことができる		○	○	○		
振り返り 反省					観点別評価の割合		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
						30%	30%	40%	

教科名	保健体育	単位数	1	使用教材	教科書：大修館書店 現代高等保健体育 副教材：大修館書店 図説 現代高等保健		
科目名	保健	対象年次	2年	授業の進め方	教科書を中心に実施する。		
学習目標	個人及び社会生活における健康・安全に関する理解を深めて、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を身につけさせる。 思春期の男女の変化や老後までの将来設計の立て方、人々が健康に生きていくための周囲の自然環境や健康問題について学び、実践力を養う。			学習方法 (留意点)	①予習：教科書を読んでおく。 ②復習：ノートを自分なりにまとめる。		
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。		健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。		生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力あるの生活を営む態度を養う。		
月	単元・学習項目	学習内容・ねらい	評価の観点			評価の方法	
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
4	3単元 生涯を通じる健康 ①ライフステージと健康 ②思春期と健康 ③性意識と性行動の選択	☐ ライフステージと健康の関連について説明できる ☐ 各ライフステージで活用できる社会からの支援について例をあげることができる ☐ 思春期における体の変化を、女性と男性に分けて説明できる ☐ 思春期の心の発達にかかわって起こる問題について例をあげることができる ☐ 性意識の男女差について例をあげて説明できる ☐ 性情報が性行動の選択に影響を及ぼす例をあげることができる	○	○	○	授業態度(出欠状況含) 定期考査 小テスト、学習プリント 提出課題 ポートフォリオ 発問評価 レポート	
5	④妊娠・出産と健康 ⑤避妊法と人工妊娠中絶 ⑥結婚生活と健康	☐ 妊娠・出産の過程における健康課題について説明できる ☐ 妊娠・出産期に活用できる母児健康サービスの例をあげることができる ☐ 家族計画の意義と適切な避妊法について説明できる ☐ 人工妊娠中絶が心身及ぼす影響について説明できる ☐ 心身の発達と結婚生活の関係について説明できる ☐ 結婚生活を健康的に送るために必要な考え方や行動をあげることができる	○	○	○		
6	⑦中高年期と健康 ⑧働くことと健康 ⑨労働災害と健康	☐ 加齢にともなう心身の変化について例をあげて説明できる ☐ 高齢社会に必要な社会的な取り組みについて例をあげて説明できる ☐ 働くことの意義と健康とのかかわりについて説明できる ☐ 働き方や働く人の健康問題の変化について説明できる ☐ 労働災害の種類とその原因について例をあげて説明できる ☐ 労働災害を防止するために必要なことをあげることができる	○	○	○		
7	⑩健康的な職業生活	☐ 職場がおこなう健康に関する取り組みについて例をあげて説明できる ☐ 余暇を積極的にとることの意義について説明できる	○	○	○		
振り返り 反省			観点別評価の割合	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
				35%	35%		30%

教科名	保健体育	単位数	1	使用教材	教科書：大修館書店 現代高等保健体育 副教材：大修館書店 図説 現代高等保健		
科目名	保健	対象年次	2年	授業の進め方	教科書を中心に実施する。		
学習目標	個人及び社会生活における健康・安全に関する理解を深めて、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を身につけさせる。 思春期の男女の変化や老後までの将来設計の立て方、人々が健康に生きていくための周囲の自然環境や健康問題について学び、実践力を養う。			学習方法 (留意点)	①予習：教科書を読んでおく。 ②復習：ノートを自分なりにまとめる。		
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。		健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。		生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力あるの生活を営む態度を養う。		
月	単元・学習項目	学習内容・ねらい			評価の観点	評価の方法	
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
8							
9	4単元 健康を支える環境づくり ①大気汚染と健康 ②水質汚濁、土壌汚染と健康	☐ 大気汚染の原因と健康への影響について例をあげて説明できる ☐ 大気にかかわる地球規模の健康問題について例をあげて説明できる ☐ 水質汚濁、土壌汚染の原因とその健康影響を説明できる ☐ 大気、水、土壌にまたがる複合的な環境汚染の発生の仕組みについて説明できる	○	○	○	授業態度(出欠状況含) 定期考査 小テスト、学習プリント 提出課題 ポートフォリオ 発問評価 レポート	
10	③環境と健康にかかわる対策	☐ 環境汚染による健康被害を防ぐ方法について説明できる ☐ 産業廃棄物の処理について説明できる	○	○	○		
11	④ごみの処理と上下水道の整備 ⑤食品の安全性	☐ ごみの処理の現状やその課題について説明できる ☐ 上下水道の仕組みと健康にかかわる課題を説明できる ☐ 食品の安全性と健康のかかわりについて説明できる ☐ 食品の安全性に関する今日的課題について説明できる	○	○	○		
12	⑤食品の安全性 ⑥食品衛生にかかわる活動	☐ 食品の安全性と健康のかかわりについて説明できる ☐ 食品の安全性に関する今日的課題について説明できる ☐ 食品の安全性を確保するための行政や製造者の役割について説明できる ☐ 食品の安全性を確保するための個人の役割について説明できる	○	○	○		
振り返り 反省			観点別評価の割合		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
					35%	35%	30%

教科名	保健体育	単位数	1	使用教材	教科書：大修館書店 現代高等保健体育 副教材：大修館書店 図説 現代高等保健		
科目名	保健	対象年次	2年	授業の進め方	教科書を中心に実施する。		
学習目標	個人及び社会生活における健康・安全に関する理解を深めて、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を身につけさせる。 思春期の男女の変化や老後までの将来設計の立て方、人々が健康に生きていくための周囲の自然環境や健康問題について学び、実践力を養う。			学習方法 (留意点)	①予習：教科書を読んでおく。 ②復習：ノートを自分なりにまとめる。		
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。		健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。		生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力あるの生活を営む態度を養う。		
月	単元・学習項目	学習内容・ねらい	評価の観点			評価の方法	
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
1	⑦保健サービスとその活用 ⑧医療サービスとその活用	☐ 保健行政の役割について例をあげて説明できる ☐ 保健サービスの活用の例をあげることができる ☐ わが国における医療保険のしくみについて説明できる ☐ さまざまな医療機関の役割について説明できる	○	○	○	授業態度(出欠状況含) 定期考査 小テスト、学習プリント 提出課題 レポート 発問評価	
2	⑨医薬品の制度とその活用 【学年末考査】	☐ 医薬品の正しい使用方法について説明できる ☐ 医薬品の安全性を守る取り組みについて例をあげて説明できる	○	○	○		
3	⑩さまざまな保健活動や社会的対策 ⑪健康に関する環境づくりと社会参加	☐ 国際機関・民間機関などの保健活動について例をあげて説明できる ☐ 行政機関による社会的対策について例をあげて説明できる ☐ 健康の保持増進のための環境づくりについて説明できる ☐ 環境づくりへの主体的な参加が自他の健康づくりにつながることを説明できる	○	○	○		
振り返り 反省				観点別評価の割合	知識・技能 35%	思考・判断・表現 35%	主体的に学習に取り組む態度 30%

教科名	保健体育	単位数	3	使用教材	教科書：大修館書店 現代高等保健体育 副教材：大修館書店 ストップアップ 高校スポーツ 2022					
科目名	体育	対象年次	3年	授業の進め方	教科書に沿って各種運動のルールと安全性について学び、実践を通して技能を身につける。					
学習目標	各種の運動の合理的な実践を通して、個人の能力・技能に応じた課題を定め解決することにより、運動の楽しさや喜びを感じさせる。また、運動技能を高めることができるようにし、生活を明るく健全にする態度を育てる。集団行動を通して、集団の約束事・決まり事を守れるように指導する。			学習方法 (留意点)	・体育服、シューズ(内・外)の準備をすること					
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度					
	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。		生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。		運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。					
月	単元・学習項目		学習内容・ねらい		評価の観点 知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	評価の方法				
4	<体づくり運動> ・体ほぐしの運動 ・実生活に生かす運動の計画 <ダンス> ・フォークダンス 日本の民謡(こきりこ)		☐ 集団行動の行動様式を実践することができる ☐ 集団の約束、決まりを守って行動する ☐ 自己の心や体の状態にきづいている ☐ 体の調子を整えている ☐ 仲間との交流を豊かにしている ☐ 動きを継続している ☐ 曲調に合わせて感情を込めて踊ることができる ☐ ささらをうまく使うことができる ☐ 振付に動と静のメリハリをつけることができる		○	○	○	授業態度(出席状況含む) 技能テスト 学習プリント 定期考査		
5	<陸上競技> ・短距離走 ・長距離走		☐ 一定のペースを保つことができる ☐ 自己の体力・能力を最大限に発揮できる ☐ 各区間の技術が向上している ☐ 記録を客観的に置き換えることができる		○	○	○			
6	<球技> ・サッカー ・バレーボール		☐ 審判を行うことができる ☐ 個人技能を修得することができる ☐ 集団技能を理解し、説明することができる ☐ 味方の位置を把握し、プレーすることができる ☐ 自分の役割を理解し、説明・行動できる ☐ 協働・協力して活動することができる ☐ ルールを理解している ☐ 準備後片付けなど、積極的に取り組んでいる		○	○	○			
			【期末考査】							
7	<体育理論(豊かなスポーツライフの設計)> ・生涯スポーツの見方・考え方 ・ライフスタイルに応じたスポーツ		☐ 社会の変化にともなうスポーツの役割がどのように変化したかを説明できる ☐ ライフステージに対応したスポーツの楽しみ方を説明できる ☐ スポーツのライフスタイルについて例をあげ説明できる ☐ 今後の豊かな設計のための諸条件や工夫のしかたの例をあげることができる		○	○	○	授業態度(出席状況含む) 学習プリント 発問評価 定期考査		
振り返り 反省					観点別評価の割合			知識・技能 30%	思考・判断・表現 30%	主体的に学習に取り組む態度 40%

教科名	保健体育	単位数	3	使用教材	教科書：大修館書店 現代高等保健体育 副教材：大修館書店 ストップアップ 高校球 2022					
科目名	体育	対象年次	3年	授業の進め方	教科書に沿って各種運動のルールと安全性について学び、実践を通して技能を身につける。					
学習目標	各種の運動の合理的な実践を通して、個人の能力・技能に応じた課題を定め解決することにより、運動の楽しさや喜びを感じさせる。また、運動技能を高めることができるようにし、生活を明るく健全にする態度を育てる。集団行動を通して、集団の約束事・決まり事を守るように指導する。			学習方法 (留意点)	・体育服、シューズ(内・外)の準備をすること					
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度					
	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。		生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。		運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。					
月	単元・学習項目		学習内容・ねらい		評価の観点 知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	評価の方法				
8	<球技> ・サッカー ・バレーボール		☐ 準備運動をしっかり行うことができる ☐ 集団技能を理解し、説明することができる ☐ 味方の位置を把握し、プレーすることができる ☐ 自分の役割を理解し、説明・行動できる ☐ 空いている場所を埋めるなど、空間への侵入から攻防ができる ☐ 自分の能力に適した課題を選択することができる ☐ 回転系の技でつま先、膝を伸ばして行える ☐ 形を崩さず技を行える ☐ 安全に課題に取り組むことができる ☐ 段階的に練習することができる		○	○	○	授業態度(出席状況含む) 技能テスト 学習プリント 定期考査		
9	<器械運動> ・マット運動、跳び箱		☐ 個人技能を習得することができる ☐ 審判を行うことができる ☐ 段階的に練習することができる ☐ 安全に充分留意して活動している ☐ チームで協力しながら活動している		○	○	○			
10	<球技> ・ソフトボール		☐ 個人的技能を修得することができる ☐ 味方の位置を把握して、プレーできる ☐ ゲームにおいて自分の役割を把握し、説明できる ☐ 個人プレーではなく、集団プレーを行っている ☐ 声掛けを行えている ☐ 準備片付けなど、積極的に取り組んでいる ☐ 安全に課題に取り組むことができる ☐ ルールを理解している		○	○	○			
11	<球技> ・バスケットボール		☐ 国内でスポーツを推進してきた従来の取り組みを説明できる ☐ 自分の住んでいる地域におけるスポーツ推進の取り組みについて説明できる ☐ 豊かなスポーツライフを創造していくための課題について例をあげて説明できる		○	○	○			
12	<体育理論(豊かなスポーツライフの設計)> ・スポーツを推進する取り組み ・豊かなスポーツライフの創造		【期末考査】		○	○	○	授業態度(出席状況含む) 学習プリント 発問評価 定期考査		
振り返り 反省					観点別評価の割合		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
								30%	30%	40%

教科名	保健体育	単位数	3	使用教材	教科書：大修館書店 現代高等保健体育 副教材：大修館書店 ストップ・アップ 高校スポーツ 2022			
科目名	体育	対象年次	3年	授業の進め方	教科書に沿って各種運動のルールと安全性について学び、実践を通して技能を身につける。			
学習目標	各種の運動の合理的な実践を通して、個人の能力・技能に応じた課題を定め解決することにより、運動の楽しさや喜びを感じさせる。また、運動技能を高めることができるようにし、生活を明るく健全にする態度を育てる。集団行動を通して、集団の約束事・決まり事を守れるように指導する。			学習方法 (留意点)	・体育服、シューズ(内・外)の準備をすること			
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。		生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。		運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。			
月	単元・学習項目		学習内容・ねらい		評価の観点 知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	評価の方法		
1	<休づくり運動> ・体ほぐしの運動 ・実生活に生かす運動の計画		☐ スピーディー・ハワフルに動いている ☐ 巧みに動いている ☐ 自己の心や体の状態に気づいているか ☐ 体の調子を整えている ☐ 仲間との交流を豊かにしている ☐ 動きを持続している		○	○	○	授業態度(出席状況含む) 技能テスト 学習プリント 定期考査
2	【学年末考査】							
3								
振り返り 反省					観点別評価の割合	知識・技能 30%	思考・判断・表現 30%	主体的に学習に取り組む態度 40%

教科名	家庭	単位数	2	使用教材	教科書 東京書籍 家庭基礎 自立・共生・創造 副教材 第一学習社 最新生活ハンドブック 資料&成分表&ICT 2024				
科目名	家庭基礎	対象年次	1年	授業の進め方	教科書、プリント、パワーポイントを用いて授業を行う。 実験、実習を多く取り入れる。				
学習目標	<p>・人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家族や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。</p> <p>・自ら学び考えることができる学習活動を通して、問題解決能力と実践的な態度を育てる。</p>			学習方法 (留意点)	<p>社会の動向に目を向け、知識を得る。</p> <p>自分の身の回りや将来のことに関心をもち、責任を伴う意思決定をする。</p> <p>対話的な学習活動を通して、様々な考え方があることを理解するとともに、協力して課題を解決しようとする。</p>				
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				
	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身につけている。		生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出し、課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。		様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。				
月	単元・学習項目		学習内容・ねらい		評価の観点 知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	評価の方法			
4	○ガイダンス 家庭科の学び方 ○生涯を見通す人生をつくる ・人生を展望する ・目標をもって生きる ・人生をつくる ・家族・家庭をみつめる		☐ 家庭科の学び方を理解する。 ☐ 青年期の課題を理解し、目標をもって生きようとする。 ☐ 生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように、さまざまな生き方について理解する。 ☐ 社会制度としての家族や家族と法律を理解する。 ☐ 仕事と家庭の両立や家庭生活と地域の結びつきについて理解する。		○	○	○	・ワークシート ・レポート ・課題提出	
5	○子どもと共に育つ ・命を育む ・子どもの育つ力を知る ・子どもと関わる ・これからの保育環境		☐ 命に対する責任や、社会の一員として次世代を育む責任をもつために、性と生殖に関する健康について理解する。 ☐ 子どもの発達に応じて適切に関わるようになるために、子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。 ☐ 子どもが健康・快適・安全に育つ環境を整えられるようになるために、子どもの生活習慣や衣食住について理解する。 ☐ 社会全体で子育てを支援していくために、現代の子育て環境の変化や課題について理解する。		○	○	○	・ワークシート ・レポート ・課題提出 ・実習	
6	○超高齢社会を共に生きる ・超高齢・大衆長寿社会の到来 ・高齢者の心身の特徴 ・これからの超高齢社会		☐ 超高齢社会の背景を理解する。 ☐ 高齢者が生きがいをもって生活するためには、家族や地域によるどのような支援が必要か、考える。 ☐ 加齢に伴う心身の変化や高齢者の生き方や尊厳について理解を深める。 ☐ 高齢者の自立を支えるためにできる適切な支援の方法や関わり方を考える。		○	○	○	・ワークシート ・レポート	
7	○学習を生かす ・ホームプロジェクト 計画 ・台ふきん製作		☐ ホームプロジェクトの意義と実施方法について理解する。 ☐ 自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。		○	○	○	・ワークシート ・レポート	
振り返り 反省					観点別評価の割合	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
						40%	30%	30%	

教科名	家庭	単位数	2	使用教材	教科書 東京書籍 家庭基礎 自立・共生・創造 副教材 第一学習社 最新生活ハンドブック 資料&成分表&ICT 2024			
科目名	家庭基礎	対象年次	1年	授業の進め方	教科書、プリント、パワーポイントを用いて授業を行う。 実験、実習を多く取り入れる。			
学習目標	・人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家族や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。 ・自ら学び考えることができる学習活動を通して、問題解決能力と実践的な態度を育てる。			学習方法 (留意点)	社会の動向に目を向け、知識を得る。 自分の身の回りや将来のことに関心をもち、責任を伴う意思決定をする。 対話的な学習活動を通して、様々な考え方があることを理解するとともに、協力して課題を解決しようとする。			
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身につけている。		生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出し、課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。		様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。			
月	単元・学習項目		学習内容・ねらい		評価の観点 知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	評価の方法		
8	○赤ちゃんふれあい体験		□ 子どもや子育てに対する理解を深めるために、子どもとの触れ合いや、親や保育者と子どもの関わり方の観察など、さまざまな体験をする。		○	○	・実習レポート	
9	○食生活をつくる ・食生活の課題について考える ・食事と栄養・食品 ・食生活の選択と安全 ・生涯の健康を見通した食事計画 ・調理の基礎 ・食生活の文化と知恵 ・これからの食生活		□ よりよい食生活を身につけ、生涯を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化などを理解する。 □ 安全で衛生的な食生活を営むために、食品の選び方、保存や加工の方法、食中毒や食物アレルギー、安全を確保するための仕組みに関する知識を身につける。 □ 食生活の自立に必要な調理の知識と技術を身につけるために、調理や加工によりおいしさが変化することを科学的に捉える。 □ 配膳やマナーに関心をもつ。 □ 郷土食や行事食などの良いところを継承・創造するために、日本の食文化の特徴を確認する。 □ 自分や家族の食生活を持続可能にすることができるようになるために、安全・環境・健康など食生活に関わる情報を適切に判断し、広い視野で食生活について考える。		○	○	○	・ワークシート ・レポート ・課題提出 ・実習
10	○衣生活をつくる ・被服の役割を考える ・被覆を入手する ・被服を管理する ・衣生活の文化と知恵 ・これからの衣生活		□ 用途に合った着装を実践できる力を身につけるために、社会生活を営む上での被服の役割を理解する。 □ 被服表示を参考にして目的に応じた被服入手と着装について考えられる力を身につけるために、被服の材料や性能、加工について科学的に理解する。 □ 手持ちの被服を長期にわたり着用することができるよう、管理や手入れの工夫について理解する。 □ 次世代に引き継げる衣生活の在り方を考えるために、資源の消費の視点で自分の衣生活を見直す。		○	○	○	・ワークシート ・レポート ・実習 ・課題提出
11	○衣生活をつくる ・被服の役割を考える ・被覆を入手する ・被服を管理する ・衣生活の文化と知恵 ・これからの衣生活		□ 用途に合った着装を実践できる力を身につけるために、社会生活を営む上での被服の役割を理解する。 □ 被服表示を参考にして目的に応じた被服入手と着装について考えられる力を身につけるために、被服の材料や性能、加工について科学的に理解する。 □ 手持ちの被服を長期にわたり着用することができるよう、管理や手入れの工夫について理解する。 □ 次世代に引き継げる衣生活の在り方を考えるために、資源の消費の視点で自分の衣生活を見直す。		○	○	○	・ワークシート ・レポート ・実習 ・課題提出
12	○衣生活をつくる ・被服の役割を考える ・被覆を入手する ・被服を管理する ・衣生活の文化と知恵 ・これからの衣生活		□ 用途に合った着装を実践できる力を身につけるために、社会生活を営む上での被服の役割を理解する。 □ 被服表示を参考にして目的に応じた被服入手と着装について考えられる力を身につけるために、被服の材料や性能、加工について科学的に理解する。 □ 手持ちの被服を長期にわたり着用することができるよう、管理や手入れの工夫について理解する。 □ 次世代に引き継げる衣生活の在り方を考えるために、資源の消費の視点で自分の衣生活を見直す。		○	○	○	・ワークシート ・レポート ・実習 ・課題提出
振り返り 反省					観点別評価の割合	知識・技能 40%	思考・判断・表現 30%	主体的に学習に取り組む態度 30%

教科名	家庭	単位数	2	使用教材	教科書 東京書籍 家庭基礎 自立・共生・創造 副教材 第一学習社 最新生活ハンドブック 資料&成分表&ICT 2024		
科目名	家庭基礎	対象年次	1年	授業の進め方	教科書、プリント、パワーポイントを用いて授業を行う。 実験、実習を多く取り入れる。		
学習目標	・人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家族や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。 ・自ら学び考えることができる学習活動を通して、問題解決能力と実践的な態度を育てる。			学習方法 (留意点)	社会の動向に目を向け、知識を得る。 自分の身の回りや将来のことに関心をもち、責任を伴う意思決定をする。 対話的な学習活動を通して、様々な考え方があることを理解するとともに、協力して課題を解決しようとする。		
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身につけている。		生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出し、課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。		様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。		
月	単元・学習項目	学習内容・ねらい			評価の観点	評価の方法	
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
1	○住生活をつくる ・住生活の変遷と住居の機能 ・あんげんで快適な住生活の計画 ・住生活の文化と知恵 ・これからの住生活	□ 生涯を見通した住生活について考え、将来に向けて自立するために、私たちの毎日の生活を支え生活拠点となる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。 □ 自らの住生活に生かすことができるよう、防災、日照、換気などに関する環境性能について理解を深め、快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。	○	○	○	・ワークシート ・レポート ・実習	
2	○経済生活を営む ・情報の収集・比較と意思決定 ・購入・支払いのルールと方法 ・消費者の権利と責任 ・生涯の経済生活を見通す ・これからの経済生活	□ 自立した責任ある消費者として、よりよい意思決定ができるよう、現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解する。 □ 毎日の生活におけるさまざまな契約について理解する。 □ 販売方法や支払い方法が多様化する中で責任ある消費行動がとれるよう、契約の重要性について理解する。 □ 生涯安定した経済生活を営めるように、経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について理解する。 □ 大きく変化する世界経済の中で家計をマネジメントする力をつけるため、家計と地域経済・国際経済のつながりについて理解する。	○	○	○	・ワークシート ・レポート ・実習	
3	○私のライフプラン 人生をデザインしよう	□ 人生の目標を達成し、自分らしい生活が実現できるよう、各ライフステージの課題や生活資源、リスク管理について振り返りながら生活設計ができるようになる。		○	○	・実習 ・レポート	
振り返り 反省				観点別評価の割合	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
					40%	30%	30%

教科名	芸術	単位数	2	使用教材	教科書：MOUSA1（教育芸術社）			
科目名	音楽 I	対象年次	1年	授業の進め方	教科書を中心にして学習し、ワークシートや補助教材を用いて進める。			
学習目標	音楽の幅広い活動を通して、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、生涯にわたり音楽を愛好する新庄を育むとともに音楽文化についての理解を深め、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。			学習方法 (留意点)	授業には教科書と補助教材、ワークシートを用いる。授業後や考査前はそれらを見直し復習する。			
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。		自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができている。		主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養っている。			
月	単元・学習項目		学習内容・ねらい		評価の観点 知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	評価の方法		
4	曲の内容について考え、発声を意識して歌おう ・校歌 ・この道		歌詞の内容から情景を読み取り、曲の心情を想像して曲の理解を深める。曲の構造と歌詞との関わりを理解し、ふさわしい発声で表現を工夫して歌う。		○	○	○	観察、ワークシート、発表
5	楽典について勉強しよう ・音名・音部記号を読む ・音符と休符、拍子について知ろう		曲を読むうえでのルールや基礎知識を身に付け、楽譜を読む力をつける。		○	○	○	観察、問題演習
	音楽の基礎を身につけよう(ソルフェージュ) ・リズムを正確に読む練習 ・メロディーを階名で歌う練習		楽典で学習した内容を生かして、リズムを余蘊ダリメロディーを歌ったりする練習をする。		○	○	○	観察、問題演習
6	音楽を形づくっている要素に着目して、曲のよさや美しさを探ろう 楽器の特徴や奏法に関心をもち、音楽の面白さを感じよう ・ポレロ		・音楽を形づくっている要素やそれらの動きに注目しながら曲を聴き、曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、根拠をもって曲や演奏を批評する。 ・オーケストラの構造について理解し、それぞれの楽器の特徴や奏法に関心を持つ。また、同じメロディーを繰り返し演奏する楽曲に凝らされた工夫を自ら見つけ出し、音楽の面白さを感じる。		○	○	○	観察、ワークシート、発表
7	情景を感じて歌おう ・花		歌詞の情景を読みとり表現を工夫し、ふさわしい発声で歌う。		○	○	○	観察、発表
振り返り 反省					観点別評価の割合	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
						%	%	%

教科名	芸術	単位数	2	使用教材	教科書：MOUSA1（教育芸術社）			
科目名	音楽 I	対象年次	1年	授業の進め方	教科書を中心にして学習し、ワークシートや補助教材を用いて進める。			
学習目標	音楽の幅広い活動を通して、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、生涯にわたり音楽を愛好する新庄を育むとともに音楽文化についての理解を深め、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。			学習方法 (留意点)	授業には教科書と補助教材、ワークシートを用いる。授業後や考査前はそれらを見直し復習する。			
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。		自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができている。		主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養っている。			
月	単元・学習項目		学習内容・ねらい		評価の観点	評価の方法		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
8	楽器の奏法を身に付け奏法によって音色や響き、表情などの違いを理解しよう リコーダー		リコーダーに親しみ、その音色や表現の特徴を味わうとともに、奏法を身につけて曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解し、表現を工夫して演奏する。		○	○	○	観察、発表
9	鑑賞 トウランドット		音楽を形づくっている要素やそれらの働きに注目しながら曲を聴き、曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、根拠をもって曲奏を批評する。		○	○	○	観察、ワークシート、発表
10	楽典について勉強しよう ・音階と階名 ・音程 イタリア語の歌を歌おう ・O sole mio		音楽の基礎を学び、音楽の構造・技能を学ぶ。 イタリア語の歌詞や発音を理解して、表現を工夫して表情豊かに歌う。		○	○	○	観察、ワークシート、発表 観察、ワークシート、問題演習
11	曲の雰囲気にあった表現をしよう ・美女と野獣 【期末考査】		歌詞を内容や登場人物の心情などを理解して、ハーモニーを感じながら歌う。		○	○	○	観察、ワークシート、発表
12	声部の動きや重なりを意識してアンサンブルしよう ・荒野の果てに		合唱やヴォイス・アンサンブルによる表現の特徴を理解し、それを生かして歌ったり、他者との調和を意識して歌ったりする。技能を身に付けながら、イメージをもって表現を工夫して歌おう。		○	○	○	観察、ワークシート
振り返り 反省					観点別評価の割合			
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
					%	%	%	

教科名	芸術	単位数	2	使用教材	教科書：MOUSA1（教育芸術社）			
科目名	音楽 I	対象年次	1年	授業の進め方	教科書を中心にして学習し、ワークシートや補助教材を用いて進める。			
学習目標	音楽の幅広い活動を通して、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、生涯にわたり音楽を愛好する新卒を育むとともに音楽文化についての理解を深め、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。			学習方法 (留意点)	授業には教科書と補助教材、ワークシートを用いる。授業後や考査前はそれらを見直し復習する。			
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。		自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができる。		主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養っている。			
月	単元・学習項目		学習内容・ねらい		評価の観点 知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	評価の方法		
1	創作 ・旋律の雰囲気を変化させる		ある旋律に音を加えたり、リズムや拍子、調を変えたりして、自分や他者の音楽を感じ取る。同時に記譜の仕方についても学び、正しい記譜ができるようにする。		○	○	○	観察、ワークシート
	楽器の奏法を身に付け奏法によって音色や響き、表情などの違いを理解しよう ・等		和楽器に親しみ、その音色や表現の特徴を味わうとともに、奏法を身に付け曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解し、表現を工夫して演奏する。		○	○	○	観察、ワークシート、発表
2	郷土の民謡と芸能 ・各地に伝わる民謡や芸能に関心をもって、その表現の特徴を理解しよう		日本各地に伝わる多くの民謡や芸能と私たちの生活との密接なかわりに気づき親しみをもって理解を深める。		○	○	○	観察、ワークシート
	世界の諸民族の音楽 世界の諸民族の音楽の特徴を知り、よさや美しさを感じ取ろう 【期末考査】		世界各地の音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりを理解し、音楽表現の共通性や固有性について考えるとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けながら、イメージをもって表現を工夫して		○	○	○	観察、ワークシート
3	ハーモニーを感じながら歌おう ・言わない		歌詞と曲想との関わりを理解して、ハーモニーを感じながら同声合唱をする。		○	○	○	観察、ワークシート
振り返り 反省	観点別評価の割合				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
					%	%	%	%

教科名	芸術	単位数	2	使用教材	教科書：日本文教出版 高校美術			
科目名	美術 I	対象年次	1年	授業の進め方	鑑賞、制作(表現)、自己・相互評価			
学習目標	・美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる。 ・感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。 ・表現活動を通して自己の価値観や他人の価値観を理解する態度を育む。			学習方法 (留意点)	・授業の目標を明確に理解する。 ・授業ごとに制作と評価を積み重ね、表現を深める。 ・完成作品について発表・鑑賞をし、自己評価・相互評価をする。			
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	デッサン、色彩、構成、材料や用具の生かし方など、創作活動にかかわる基本的な知識・技能を身につけている。		自己の追及したい主題の構想を練り、多様な表現方法の理解に基づく効果的な表現方法を工夫している。		各単元の学習内容を具体的に理解し、主体的に取り組むことができる。 美術作品や自他の作品のよさや美しさを感じ取り理解できる。			
月	単元・学習項目	学習内容・ねらい			評価の観点 知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	評価の方法		
4	☐ オリエンテーション ☐ 作品鑑賞 ☐ 立方体を描く	☐ 年間を通しての美術の学習内容を理解する。 ☐ 美術の多様性とその魅力を理解する。 ☐ 単純な図形の着色によって色の持つ効果を知る。			○	○	○	☐ 合評会 ☐ 合評会 ☐ 合評会
5	☐ 風景を描く ☐ 合評会	☐ 淡彩の技法を学ぶ。 ☐ 効果的な構図を工夫できる。 ☐ 季節感を活かした制作ができる。			○	○	○	
6	☐ 絵画表現で表す想像の世界	☐ アイデアをの技法を知る。 ☐ 具体的な情景設定の構想を設定し表現することができる。 ☐ テーマを元に作品を制作できる。			○	○	○	
7	☐ 合評会							
振り返り 反省					観点別評価の割合	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
						30%	30%	40%

教科名	芸術	単位数	2	使用教材	教科書：日本文教出版 高校美術		
科目名	美術 I	対象年次	1年	授業の進め方	鑑賞、制作(表現)、自己・相互評価		
学習目標	・美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる。 ・感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。 ・表現活動を通して自己の価値観や他人の価値観を理解する態度を育む。			学習方法 (留意点)	・授業の目標を明確に理解する。 ・授業ごとに制作と評価を積み重ね、表現を深める。 ・完成作品について発表・鑑賞をし、自己評価・相互評価をする。		
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	デザイン、色彩、構成、材料や用具の生かし方など、創作活動にかかわる基本的な知識・技能を身につけている。		自己の追及したい主題の構想を練り、多様な表現方法の理解に基づく効果的な表現方法を工夫している。		各単元の学習内容を具体的に理解し、主体的に取り組むことができる。美術作品や自他の作品のよさや美しさを感じ取り理解できる。		
月	単元・学習項目	学習内容・ねらい			評価の観点	評価の方法	
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
8	□ 塑像で表す想像の世界	○	○	○	・制作の初めや途中のスケッチや試作品など ・学習ノートの学習計画(課題や見直し)や学習記録(自己評価、相互評価など)		
9						□ 塑像の技法を知る。 □ 具体的な情景設定の構想を設定し表現することができる。 □ テーマを元に作品を制作できる。	
10							
11	□ イラストレーション	○	○	○	・制作した作品(完成度)		
12						□ 様々な技法を知る。 □ 多様な表現の良さを感じ取る。 □ 多様な価値観を認めることができる	
	□ 合評会						
振り返り 反省				観点別評価の割合	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
					30%	30%	40%

教科名	芸術	単位数	2	使用教材	教科書：日本文教出版 高校美術			
科目名	美術 I	対象年次	1年	授業の進め方	鑑賞、制作(表現)、自己・相互評価			
学習目標	・美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる。 ・感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。 ・表現活動を通して自己の価値観や他人の価値観を理解する態度を育む。			学習方法 (留意点)	・授業の目標を明確に理解する。 ・授業ごとに制作と評価を積み重ね、表現を深める。 ・完成作品について発表・鑑賞をし、自己評価・相互評価をする。			
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	デッサン、色彩、構成、材料や用具の生かし方など、創作活動にかかわる基本的な知識・技能を身につけている。		自己の追及したい主題の構想を練り、多様な表現方法の理解に基づく効果的な表現方法を工夫している。		各単元の学習内容を具体的に理解し、主体的に取り組むことができる。美術作品や自他の作品のよさや美しさを感じ取り理解できる。			
月	単元・学習項目	学習内容・ねらい			評価の観点 知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度			
1	☐ デジタルカメラを使ったアニメーションの制作	☐ アニメーションの技法や試作ソフトの活用を知る。 ☐ アニメーションの良さを生かし効果的な映像表現することができる。 ☐ 集団作品の良さを活かした制作ができる。			○	○	○	・学習活動への参加の状況(制作への取組の姿や態度、授業中の発言、制作の準備) ・制作の初めや途中のスケッチや試作品など ・学習ノートの学習計画(課題や見直し)や学習記録(自己評価、相互評価など) ・制作した作品(完成度)
2								
3								
振り返り 反省	☐ 合評会				観点別評価の割合			知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度 30% 30% 40%